

物資供与の経緯および概要

ミャンマー・エヤワディ管区のバティン市東部、ヒンタダ市等（ヤンゴン市より北西約150Km に位置するデルタ地帯で、同国有数の穀倉地帯）で7月初め頃より多量の雨が降り続いていたが、7月下旬頃よりミャンマーで最大の河川エヤワディ河が氾濫した為、同河川西側のデルタ地帯一帯が50年に一度という大洪水に見舞われ6万世帯、28万人が被害を受けた。

我が国としてはミャンマー政府よりの要請に対し、今次水害が同国の状況の中で被災地の住民にとって極めて大きな打撃となっており、人道的見地に鑑み緊急援助を行なうこととした。

1	派遣国	ミャンマー連邦
2	災害区分	洪水
3	災害発生時期	1991年7月
4	災害の規模	死者 1人、被災者 約 28万人
5	活動区分	援助物資の供与 医薬品、医療資材、浄水剤、毛布、石鹼、 タオル
6	供与時期	1991年8月

被害状況：

人的被害	物的被害
死者 1人	家屋流出 20,000戸以上
被災者 63,057世帯 (281,000人)	家屋浸水 44,521戸
	農地被害
	稲作地 1,550 Km ²
	シュート畑 70 Km ²

(8月21日現在)

※9月4日 UNDR0情報によると

赤痢 4,573人、呼吸器疾患／マラリア13,120人、蛇に噛まれた4人の報告あり。

各国及び国際機関からの援助：

			US\$
国連機関および			
国際機関	: UNDR0	: 緊急援助	15,000
各国政府			
	: 英国	: 救援資金、救援物資	16,863
	: オーストリア	: 救援資金、救援物資	28,435
	: ドイツ	: 救援資金、救援物資	8,000
NGO	: World Vision	: 緊急援助	42,000

8月21日(水)12時、外務省よりミャンマー国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

記

1. 外務省及びJICAの対応

(1) ミャンマーが今次洪水災害により多くの人的、物的被害を蒙ったことに対し、緊急的、人道的見地から医薬品及び日常生活品をミャンマー政府の要請に応じ援助する。

(2) 援助物資の供与(総額16,282,000円、含輸送費)

①シンガポール備蓄分

毛布	1,000枚
石鹸	3,000個
タオル	3,000枚

②UNIPAC(コペンハーゲン)調達分

医薬品、医療資材	2セット
浄水剤(5ℓ用 50tab/箱)	500箱

2. 被害概況

①発生時期：1991年7月上旬～下旬

②被害地域：イラワディ管区(バテイン市東部、ヒンダダ市等)の地域。同地域は同国最大のイラワディ河の河口デルタに位置している。又ザガイン管区及びカイン州でも水害が発生する等規模が拡大しつつある。

③発生原因：上記被害地域を中心に50年に一度という大雨が降り続き堤防が決壊し、広範囲の水害を招いた。

④被害状況

人的被害：死者 1人
被災者数 281,000人(63,057世帯)

物的被害：流出家屋 20,000戸以上
浸水家屋 44,521戸
冠水地域 1,065Km²
被害稲田 1,550Km²
被害麻田 70Km²

この他小中高等学校156校、病院9ヶ所等を始めとする公共施設多数に被害が出でおり、また、幹線鉄道、道路も冠水のため不通となっている。

3. ミャンマー政府の対応

8月15日ミャンマー外務省バ・トゥイン国際機関・経済局長より川村日本大使に対し、今次の洪水に対し、被害規模を通報すると同時に、日本よりの緊急援助が頂ければありがたい旨口頭にて要請があった。これを受け日本大使館及びJICA事務所が同国政府救援復興局に詳細を問い合わせたところ下記の物資について援助要請があった。

毛布：5,000枚、医薬品、医療資機材：2セット、石鹸：5,000個
タオル：5,000枚

4. 我が国による緊急援助の理由

(1) ミャンマーは後発開発途上国(LLDC)で厳しい経済状況にあり、日常の医薬品も不足している。又、日常生活も厳しい状況にあり、今回は被災地域の住民に大きな打撃を与えており、人道的見地から医薬品及び被災者の日常生活を支援する物資の供与を行うことは極めて重要である。

(2) 今回の水害は、50年に1度という大規模なものであり、被災者数も28万人と大多数に上っている他、10月初旬頃まで雨期が続くため、更に被害が拡大して行く恐れがあり緊急に援助を行う必要がある。

(3) 我が国の対ミャンマー経済協力については、継続案件は限定的且つ徐々に実施可能なものからこれを実施しているが、新規援助は緊急的、人道的性格の援助とは別として当面情勢を見守るとというのが基本方針。今回の洪水被害は右方針の緊急的、人道的援助に該当するものであり、我が国としても、ミャンマー政府よりの要請に応じ緊急援助を供与することは当然の責務と考える。

5. 先進諸国の動向

8月15日現在援助要請があったのは日本のみである。他の先進国は、現在情報収集の段階でミャンマー政府の調整待ちであるが、米、豪、英、独は援助を実施する方向で検討中。

6. 国際機関の動向

UNDP：5万ドル供与済（7月末日）今回追加5万ドル検討中

UNDRO：1.5万ドル供与実施済（6月下旬）追加として2.5万ドル検討中。

WHO：医薬品等供与（54,000ドル）

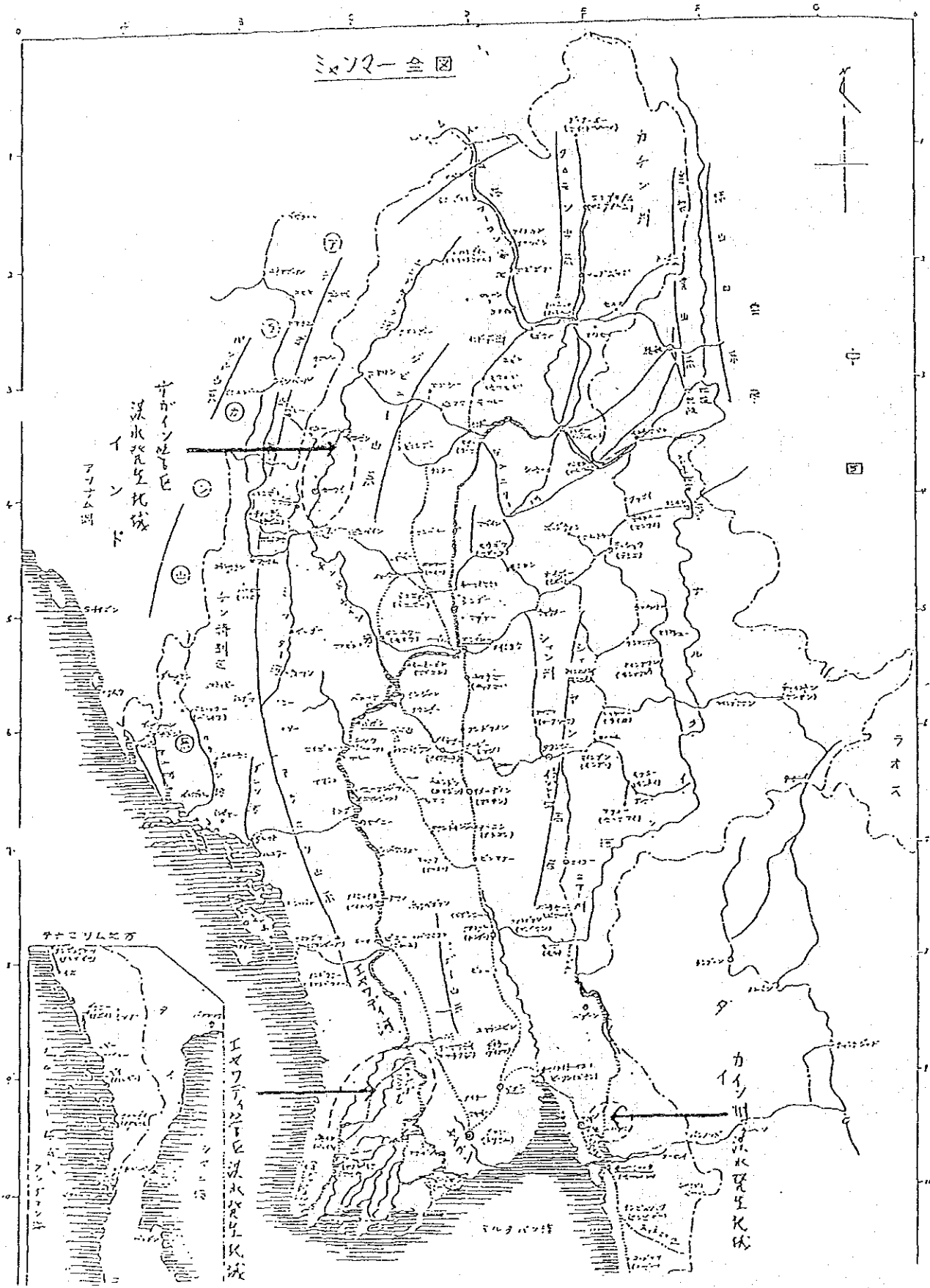
UNICEF及びFAO：援助額をUNDPと調整中。ミャンマー側調査結果待ち。

ミャンマー政府への緊急援助物資については、シンガポール備蓄分、UNIPAC(コペンハーゲン) 調達分の現地到着が下記の通り確認された。

記

1. シンガポール備蓄分 (毛布、石鹸、タオル)
8月24日(土) 15:40 (TG-305) ヤンゴン着
2. UNIPAC(コペンハーゲン) 調達分 (医薬品、医療資材、浄水剤)
8月26日(月) 15:40 (TG-305) ヤンゴン着

なお、上記援助物資の贈呈式は、8月28日午後3時に、ミャンマー側からウ・ウンチョウ外務副大臣、日本側から川村大使、佐野JICA事務所長出席のもとに行う予定。



ミャンマー全図

ブカイン地方
淡水産魚生北域
イリヤン

チナコリム地方

エズワテ地方
淡水産魚生北域

カイン川
淡水産魚生北域

ラオス

(16) カンボディア洪水災害

物資供与の経緯および概要

8月19日より降り始めた豪雨により洪水が発生し、特に20日より22日までの間に被害が多発した。

被災地域は、カンダル州、コンボン・スプー州、タケオ州、カンポット州のほぼ全域およびコンボン・チュナン州、コンボン・チャム州に及び（カンボディア全19州の内の6州）、死者22名、流出家屋、農地被害など多数の被害が発生した。

我が国としては、カンボディアSNC、プノンペン政府よりの要請を受け、同国の状況に鑑み、人道的見地より緊急援助を行なうこととした。

1	派遣国	カンボディア
2	災害区分	洪水
3	災害発生時期	1991年8月19日
4	災害の規模	死者 22人、被災者 50万人以上
5	活動区分	援助物資の供与 医薬品、医療資材、毛布、テント
6	供与時期	1991年8月

被害状況：

人的被害		物的被害	
死者	22人	流出家屋	6万戸以上
被災者	50万人以上	農地被害	10万ha以上
		道路・橋梁・通信施設の寸断あり。	

(8月28日現在)

8月28日（水）午後4時、外務省よりカンボディア国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

記

1. 外務省及びJICAの対応

(1) カンボディアが今次災害により多くの人的・物的被害を蒙ったことに対し、カンボディア最高国民評議会（SNC）議長シハヌーク殿下よりの緊急援助要請に応じ援助する。

(2) 援助物資の供与（総額 15,756,000円、含輸送費）

①シンガポール備蓄分

テント（グラウンドシート付） 50張

毛布（普通用） 1,000枚

②UNIPAC（バンハーク）調達分

医薬品・医療資機材 2セット

2. 被害概況

8月19日より降り始めた集中豪雨による洪水が、8月22日頃をピークにカンボディア国内各地で発生し、その後8月27日現在雨は峠を越したものの、現在においてもなお一部地域で新たな被害が生じている。

(1) 被害地域：カンダル州、コンポン・スプー州、タケオ州、カンポット州の全域、コンポン・チュナン州、コンポン・チャム州の一部（カンボディア国19州のうち6州）。

※ 別添地図参照

(2) 人的被害：死者 22名

被災者 当初調査時において50万人以上、今後調査の進展に伴い100万人近くに及ぶ可能性あり。

(3) 物的被害：流出家屋 6万戸以上

農地被害 10万ヘクタール以上

道路、橋梁、通信施設等の寸断多数あり。

3. カンボディア政府（SNC及びプノンペン政府）の対応

- (1) シハヌーク殿下は、SNC議長として8月22日国際社会、友好国に対し緊急援助物資供与を要請。
- (2) プノンペン政府は、国際機関等に対し直接援助を呼び掛け。
- (3) プノンペン政府保健省、プノンペン赤十字、各州当局は調査委員会を設置し、対策を検討中。
- (4) プノンペン政府外務省は、同政権支配地域にて活動中の全ての援助機関の会合を招集し、緊急援助を要請。

4. 我が国の緊急援助を行なう理由

- (1) カンボディアはLLDCの認定こそ受けてはいないが、これまでの戦乱により恒常的に医薬品さえ不足している状況にある。従って、今次災害は、被災地域の住民にとっては大きな打撃となっており、人道的見地から医薬品及び被災者の生活を支援する援助物資を供与することは、極めて重要である。
- (2) 10年来のカンボディア問題の政治的解決は、最近シハヌーク殿下が議長を務めるSNCを中心にカンボディア人自身の手により大きな進展を見せ、和平プロセスは現在大詰を迎えている。今次の洪水被害の問題は、カンボディア各派共通の深刻な心配事であり、我が国政府が、速やかに今次洪水災害に対する緊急援助を決定し、先方に伝えることになれば、本件援助の人道的側面に加え、政治的にもカンボディア人との国民和解の環境改善となり、本件アピールを発したシハヌーク殿下の指導力に対する一層の信頼強化に繋るものである。また、このような供与を行うことは、これまでのカンボディア情勢に対する我が国の基本姿勢に合致するものである。

5. 諸外国による援助状況

UNDP：5万ドルの緊急援助を実施予定。

WEP：1,000トンの備蓄米放出を検討中。

UNICEF：飲料水供給を検討中。

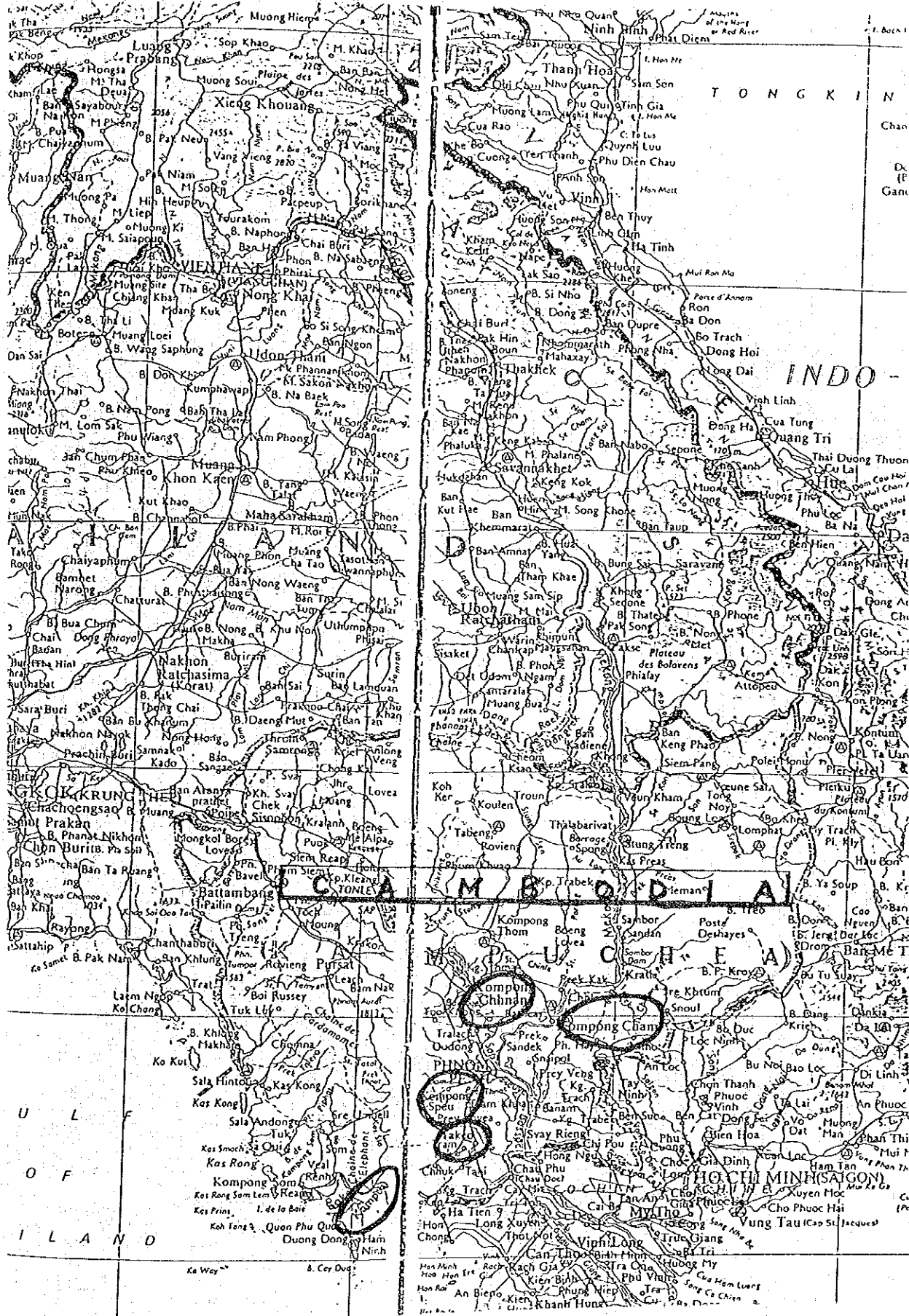
カンボディア政府への緊急援助物資については、シンガポール備蓄分の現地到着が下記の通り確認された。

記

1. シンガポール備蓄分（テント(グラブシート付)、毛布)

8月31日(土)午後4時プノンペン着(TRANSINDOチャーター機、)、エンジントラブルの為、到着が5時間遅れた。

なお、プノンペン到着にあたっては、現地日本政府出先機関がないため、UNHCRプノンペン事務所の茂木氏により、国際電話にて到着が確認された。援助物資は9月1日から、カンボディア政府の用意したヘリコプターにて被災地に配布された。配布にあたっては、「カ」側から厚生大臣、赤十字社総裁、外務副大臣が同行した。又、今回の迅速なる日本からの援助に対し、早急に日本政府へ礼状を発出したいとの「カ」側の意向が表明された。なお、報道陣としてはNHKTVが現地入りしており、今回の日本の援助に対し詳しく取材した。本邦においては、一両日中に報道される予定。



各国及び国際機関からの援助 :			US\$
国連機関および			
国際機関	: UN D R O	: Survival Kits	20,000
	: UN D P	: Survival Kits, 種粉	50,000
	: UN I C E F	: 飲料水、サンドバッグ、薬品、種粉	175,000
	: W F P	: 食料(米、蛋白補強)	416,000
	: W H O	: 薬品	5,000
	: O S R S G	: サンドバッグ	190,000
各国政府			
	: オーストラリア	: サンドバッグ、救援物資	183,000
	: デンマーク	: 救援資金	74,000
	: フランス	: Survival Kits	30,000
	: ドイツ	: 薬品	30,000
	: オランダ	: 粉	200,000
	: ノルウェー	: 食料、薬品、衣類	117,300
	: タイ	: サンドバッグ、救援物資	400,000
	: 英国	: 救援資金	50,000
	: 米国	: プラスティックシート	236,700
NGO			
	: A C R	: Agricultural Inputs	187,500
	: A F S C	: Animal Vaccinations	28,700
	: C A R E	: 救援物資	40,000
	: C A T I T A S	: 救援物資	24,000
	: C I D S E	: サンドバッグ、Agricultural Inputs	30,300
	: C O N C E R N	: サンドバッグ、Survival Kits	29,000
	: C W S	: Animal Vaccines	150,000
	: L R C S	: 食料、サンドバッグ、Survival Kits	471,000
	: L W S	: サンドバッグ、種	120,000
	: O X F A M	: Survival Kits	127,000
	: R E D D B A R N A	: サンドバッグ、Survival Kits	25,000
	: S C F / A U S	: サンドバッグ	13,000
	: タイ赤十字	: 救援物資	8,500
	: W C C	: サンドバッグ、種	36,000
	: World Vision	: サンドバッグ、Survival Kits、 Agricultural Inputs	192,000

(17) フィリピン台風災害

派遣の経緯および概要

11月5日フィリピン中部地域を襲った台風ウリンは、同地域に集中豪雨をもたらした。レイテ島及びネグロス島を中心に鉄砲水による洪水などが発生し、甚大な人的・物的被害をもたらした。

我が国としては、これまでフィリピンにおいて甚大な惨禍をもたらした自然災害に対し、その都度迅速な緊急援助を行い、フィリピン政府並びに国民より多大な感謝を受けている。今次災害に対するフィリピン政府の緊急援助要請に対して、人道的見地及び両国の友好に鑑み緊急援助を行うこととした。

1	国名	フィリピン共和国
2	災害区分	台風
3	災害発生時期	1991年11月5日
4	災害の規模	死者約 4,000人、被災者約 600,000人
5	派遣区分	医療チーム、業務調整
6	派遣の目的	①被災国側状況調査 ②負傷者に対する医療活動 ④援助物資の供与
7	派遣期間	1) 物資供与 (供与時期1991年11月) 2) 医療チーム (11/11~11/23)
8	チームの構成	医療チーム 団長(1)、医師(2)、看護婦(2)、調整員(1)
9	受入期間	保険省、国家災害調整委員会
10	活動の場所	オルモック
11	活動の内容	物資供与・医薬品、医療資材、浄水剤、毛布、テント、ポリタンク 救助チーム・負傷者に対する医療活動 被災国側状況調査
12	携行機材	医薬品、医療資材

被害状況：

人的被害		物的被害	
死者	3,956人	家屋喪失	7,081戸
(内行方不明)	3,000)		
負傷者	約 3,000人		
被災者	598,454人		

(11月29日 UNDR0情報)

援助内容：

物資供与：供与時期・・・1991年11月

供与物資・・・医薬品、医療資機材、浄水剤、
ファミリーテント、スリーピングマット、
毛布、ポリタンク

医療チーム：

派遣メンバー：団長（1）、医師（2）、看護婦（2）、業務調整（1）

派遣期間：1991年11月11日 ～ 11月23日

	氏名	所属先	指導科目
団長	亀井 啓次	外務省 経済協力局 技術協力課	総括
団員	上原 鳴夫	国立病院医療センター	救急医療
	新崎 康博	国立病院医療センター	救急医療
	金田 信子	筑波メディカルセンター	救急看護
	歌川 多香子	JMTDR登録看護婦	救急看護
	小澤 勝彦	国際協力事業団総務部	業務調整

各国及び国際機関の援助状況		US\$
国連機関および	UNDP	: 緊急援助 50,000
国際機関	UNICEF	: 浄水剤 42,000
	WFP	: 食料バック (4,125) 50,000
	WHO	: 浄水剤 . . .
	UNDRO	: 緊急援助 40,000
	EEC	: 救援資金 609,756
各国政府	: オーストラリア	: 救援資金 191,907
	カナダ	: 救援資金 183,632
	デンマーク	: 救援資金 26,923
	フィンランド	: 救援資金 (LICROSS 経由) 24,449
	フランス	: 救援資金 34,783
	ドイツ	: 救援資金 (民間団体へ) 29,762
	オランダ	: 救援資金 (NGO 経由) 1,052,631
	ニュージーランド	: 救援資金 28,409
	ノルウェー	: 救援資金 (NGO 経由) 128,636
	スウェーデン	: 緊急援助 163,666
	英国	: 救援資金 (NGO 経由) 179,014
	米国	: 食料、シェルター、救援資金 378,000
NGO	: 国際赤十字連盟	: オーストラリア、カナダ、フィンランド、ドイツ、アイスランド、イギリス、 インドネシア、ニュージーランド、ノルウェー、スウェーデン、日本 1,084,660
	CARE	: フラッシュシート 25,000
	CARITAS/ドイツ	: 復旧援助 119,047
	Catholic Relief Services	: 救援資金 (民間団体へ) 60,000
	Diakonsche Werk Germany	: 救援資金 119,048
	MSF/Belgium	: Fact-Finding Mission . . .
	World Vision	: 救援資金 131,782
	Praivate	: 緊急援助 (Red Cross 経由) 3,469

業務報告書

氏名 亀井 啓次		担当分野 団 長		所 属 外務省 経済協力局 技術協力課	
受入機関	Ormoc City Coordinating Council (OCCC)				
派遣機関	平成3年11月11日 ~ 11月23日 (13日間)				
派遣行程	月 日	曜日	派遣日程 (宿泊地)	活 動 内 容	
1	11月11日	月	東京→マニラ	移動 在日本大使館、JICA事務所との打ち合わせ	
2	12日	火	マニラ→オルモック (タクロバン経由)	移動 Ormoc District Hospitalにて現地聴取	
3	13日	水	オルモック	インマルサット試動 市長との懇談、NHK記者来訪、避難センターでのクリニック開設準備	
4	14日	木	同上	診療開始準備 市長室で打ち合わせ アメリカ事前調査団と接触	
5	15日	金	同上	診療補佐、District Hospitalにて会議 供与機材要請聴取、市長室での打ち合わせ	
6	16日	土	同上	診療補佐 (昼) District Hospitalにて会議	
7	17日	日	同上	診療補佐 (夜) 水質の専門家との協議	
8	18日	月	同上	診療補佐 出張診療補佐 (イビル村)	
9	19日	火	オルモック	診療補佐 市衛生局との打ち合わせ 出張診療補佐 (リナウ村)	

派遣行程	月 日	曜日	派遣日程 (宿泊地)	活 動 内 容
10	11月20日	水	同上	診療補佐 物資供与に関する協議 現地看護婦との懇親会
11	21日	木	オルモック→マニラ (タクロバン経由)	診療所撤収 資材供与に関するリスト 取得
12	22日	金	マニラ	JICAでの報告会 大使表敬 大使館、JICA主催懇談会
13	23日	土	マニラ→成田	移動
主な 面会者	氏 名		職 位	
	Mrs. Locsin		Olmoc City Mayor	
Mrs. Locsin		Congressman		
Dr. Juan V. Pastor		Disaster Co-ordinator		
Dr. V. Rodrigues		Co-ordination Center		
Dr. Marson		Chief City Health Office		
Dr. V. Espina		Assistant City Health Officer		
Dr. J. Castro		Olmoc District Hospital		
Dr. Fernandez		Cebu City Health Officer		
Engr. Msrianao Agdeppa		Supervising sanitary Engineer/DOH		
Engr. Carthelo A. Arbina		"		
Dr. Arteche		Provincial Health Office		
診療所を手伝ってくれた方々				
Dr. Regie Mercado		Medical Supervisor City Health Office		
Dr. Ernie Navera		City Health Office		
Ms. Sov Patila		Midwife		
Ms. Amiigu Alba		"		
Ms. Melly Macatual		"		
Ms. Susan Codilla		Nurce		
Ms. Imelda Pavingwet		Midwife		
Ms. Naneisa Oullano		"		
Ms. Maria Flores		Nurce		
Ms. Josefina Cadileen		"		

活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・避難センターでの診療活動補佐 診療期間：11月13日～20日 ・出張診療活動補佐 期日：11月18日・・・イビル村 19日・・・リノウ村 ・水質検査等専門家派遣要請 ・オルモック市に必要な資機材供与（現地業務費より支出）
今後の活動への課題と検討事項	<p>今回の経験から携行機材に更に追加した方が良いと思われる資材</p> <ul style="list-style-type: none"> ①殺虫剤 ②携帯用瞬間冷却器（上原医師の言によると、携帯用使い捨てカイロの逆のような物で、たたくと冷えるものがあるとの事） （トキソイド等冷却を必要とする医薬品を携帯している場合、被災地では電気も無く冷蔵庫が使えない事もあり得、また移動中の使用にも可能なことから） ③単二電池 ④日本茶 ⑤携帯用FAX、コピー機（あれば非常に便利。被災地の状況によっては、携行を考えてもよいかも） ⑥クリアファイル ⑦カルテ ⑧長鉗子 ⑨安全ピン ⑩薬を分けて患者に渡せるようにする小瓶 ⑪トランシーバー
他機関活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インドNGO団体のイビル村での診療活動 ・アメリカ事前調査団 各種（復旧、医療、建築等）専門家の事前調査 ・日本のボランティア団体アガベハウス

フィリピンの台風災害に対する国際緊急援助隊報告

今般フィリピンで発生した台風災害に対し、国際緊急援助隊が派遣され、23日全隊員が無事帰国したところ、以下の通り当援助隊の活動等につき報告申し上げます。

1. 構成

亀井啓次 (総括) 外務省技術協力課事務官
上原鳴夫 (医師) 国立病院医療センター
新崎康博 (医師) 同上
金田信子 (看護婦) 筑波メディカル・センター
歌川多香子 (看護婦) 国際緊急援助隊医療チーム登録者
小沢勝彦 (調整員) 国際協力事業団職員

2. 日程

11月11日 東京発マニラ着
12日 オルモック着
21日 マニラ着
23日 マニラ発東京着

3. 現地の医療状況

オルモック市の医療活動は組織的に行われており、洪水被害のような特に高度な医療技術を必要としない状況では現地で十分に対応していけるものと思われた。ただ、当初伝染病に対する警戒心が余り無く、セブ市援助チームの提言があるまでは着手する様子もなかった。また、コレラに対する防疫に必要な設備もなく、セブ市援助チームの提言後、我々にその設備援助につき要請越した(この件に関しマニラのJICA事務所に依頼したが、比側保健省の知るところとなり、保健省よりタクロバン(オルモック市のあるレイテ州の州都)にその施設があるので援助する必要なしとの申し出があり、実施しなかった。もっとも、不足分については、現地業務費による供与物資の中の医薬品、医療機材の中に若干その設備に関する物資を入れ込んだ。)。近隣の村への巡回診察に関しては手薄でインドから来たNGOの医師にその村が勝手に医療活動を依頼していた。医薬品については特に不足している様子はなかった。

4. 活動内容

12日 オルモック市到着後、Olmoc District Hospital(ODH)(当病院が医療関係のDisaster Operation Center)に赴き、当援助隊のオルモック市での今後の医療活動につき協議。

13日 ODHと協議の結果、取り合えずOlmoc High School(避難民収容所として使用されている)にて既存の診療所と協力しての医療活動を要請越す。また、巡回診療に関しても今後の状況を見て活動に余裕があれば行ってほしい旨要請越す。当方より、現地業務費より医療活動を支援する用意がある旨伝える。

NHK記者来訪。上述学校への医療機材搬入模様等を取材。

セブ市援助チームと懇談(コレラ患者発生防止のため、水質管理、コレラ菌検査機設置等が急務である旨強調)

14日 診療活動開始

この日より、昼のODHでのミーティング、夜の市役所でのミーティング(市長主催)に参加。

・ODHではその日の医療活動状況等を報告

(バーストール医療関係災害調整官より浄水機、散霧機、トランシーバー、ポータブルトイレの寄付を依頼越す)

・市役所では主に復旧活動、水質管理のあり方等を協議。

米国災害事前調査団と接触。(8人の専門家より構成。15日にマニラに戻った。)

15日 City Health Officeより水タンク、クロリンテスターの供与を依頼越す。

17日 マニラより水質検査専門家4名到着。水質検査を行う。

クロリンテスター2セットを供与

18日、19日午後 巡回診察(借上車を利用)。

19日 トランシーバー供与(親1台、子8台)

20日 散霧機、ウォータータンク(2トン)を供与。

21日 Olmoc District Hospital、City Health Officeより供与依頼リストを手交越す
ロキシン市長からの感謝状を後送する旨連絡が入る。オルモック発マニラへ。

5. 診察活動(14日~20日)

同じ避難民収容所で活動する診療所より通訳兼お手伝いとして毎日4名の看護婦を提供してもらい診察活動はスムーズに行われた。

・患者数

避難民収容所での患者数 476名

巡回診察での患者数 124名 合計600名

・患者の傾向

患者数では、洪水が原因と見られる疾病症状は非常に少ない(洪水災害では、死者は多く出ても負傷者はそれほど多くない、また、負傷者の多くは復旧活動にそのまま当た

っているのではないかと見られる。5日に災害が発生してからすでに1週間立っており、負傷者の多くも回復期にあるのではないか)。

洪水が原因と見られる患者：足等に負傷しそのまま裸足で生活しているものもあり、足に徴が生える等の症状がある。洪水による恐怖、家族の死亡等で心身症になっているもの。

6. 現地業務費による供与物資

トランシーバー (親1台 子8台) (病院と5つの避難民収容所を連絡)

フォッキングマシン 2台 (建物内消毒)

ウォータータンク (2トン) 20台 (各避難民収容所に設置)

簡易便所 600個 (避難民収容所に設置)

医薬品及び医療機材 200万円相当 (比側提出リストをマニラのJICAに渡し限度額を越えないよう調整した上で後送)

7. 他の援助隊の援助状況

我がチーム滞在中、我がチーム以外の政府ベースの援助隊の活動は行われなかった。ただ、上記の米国事前調査団が調査を行っており、我々と入れ替わりに21日現地にその調査に基づく援助チームが入った模様。

フィリピン国内では、上記のセブ市チームが70名からなる援助チームを派遣し、大々的に活躍していた。

8. 気づきの点

(1) 成果

・政府ベースとしては最も早く我がチーム活動期間では唯一の外国援助隊であった。

・現地では医療活動を既に組織的に行っており、その活動を妨害せず如何に我々の活動を行うかが課題であったが、比側の協力を得、その組織の中にスムーズに入ることができた。

・水質検査の専門家を早い段階で送り込むことができ、まさに比側が水質検査を重要視していた時だけに、我々への信頼度はかなり高まった。

・現地業務費による物資供与は、我がチームが直接被災地にいる担当者と話しができ、本当に彼らが欲している物資を反映することができ、額は余り多く無くても比側に非常に歓迎された。

(2) 通信

今回携帯したインマルサットが作動せず、連絡には市長室にある電話しか使用で

きず非常に不便であった。また、現地でまったく通信施設が麻痺している状態において、隊員間の連絡体制が問題となった（わがチームがホテル、診療所の2か所に分かれて行動することが多かったため）。

(3) 隊員の福利厚生

被災地では、水、トイレ、電気の確保が難しく、特に女性の隊員がいる今回のチームでは今後携行機材を含め改善する必要があると思われる。今回は、運よく寝泊まりできるホテルがあったが当ホテルが使用できない場合テント等を携帯する必要があるが準備されていなかった点反省される。以上のごとく隊員の福利厚生につき今後検討する必要があると思われる。

9. その他

今回、援助隊派遣に際しては、マニラの大使館、JICA事務所より、ロジ面で全面的な協力を得、現地入りする際には大使館より柏樹書記官、JICAマニラ事務所からは清水職員に同行していただき、現地での態勢作りを助けて頂いた。

フィリピン側では、現地入りする際、保健省から2名の職員が同行し、現地での関係者へのアプローチを手伝ってくれた。また、現地では上記のごとく、ODHをはじめ多くのフィリピン側関係者の協力を得ることができ、援助活動をスムーズに行うことができた。

業務報告書

氏名	上原 鳴夫	担当分野	統括・救急医療	所 属	国立病院医療センター
受入機関	Olmoc City Coordinating Council(OCCC)				
派遣機関	平成3年11月11日 ～ 11月23日 (13日間)				
派遣行程	月 日	曜日	派遣日程 (宿泊地)	活 動 内 容	
1	11月11日	月	東京→マニラ	東京発10:30pm マニラ着。 大使館、JICA事務所からオリエンテーションを受ける	
2	12日	火	マニラ→オルモック (タクロバン経由)	マニラ7:30am発→タクロバン→オルモック4:10pm着。 オルモック病院対策本部にてオリエンテーション	
3	13日	水	オルモック	8:00am～午前中病院および活動拠点候補地の調査。 午後第1避難センターにてクリニック開設準備。 夜OCCC会議出席。その後セブチームと会議。	
4	14日	木	同上	7:30am～会員準備 8:30am診療開始～5:00pm 夜OCCC会議出席。その後アメリカ調査団と交流、情報収集。	
5	15日	金	同上	7:00am集合、準備 8:00am診療開始～5:00pm 昼休み中病院内会議出席。 市衛生局着任者と協議。 夜OCCC会議出席。 必要備品について要請あり	
6	16日	土	同上	7:00am集合 8:00am診療開始～5:00pm 昼休み中病院本部会議出席	
7	17日	日	同上	7:00am集合 8:00am診療開始～5:00pm (新崎、金田両氏は午後被災地視察と休養) 夜水の専門家チームと協議	

派遣行程	月 日	曜日	派遣日程 (宿泊地)	活 動 内 容
8	18日	月	同上	7:00am集合 8:00am診療開始～5:00pm 協力ナースたちと昼食会、 上原、歌川、亀井各氏は 3:00pm～6:30pmまでイビル 村で出張診療。
9	19日	火	オルモック	7:00am集合 8:00am診療開始～5:00pm 昼休み時市衛生局と希望 薬品リスト協議。 新崎、金田、亀井各氏は 2:00pm～6:00pmまでリナウ 村で出張診療。
10	20日	水	同上	7:00am集合 8:00am診療開始～5:00pm 在庫チェック、英文リスト の作成。 2:00pm～2:30pmDR. パスツールと 必要資材協議。 4:00pm～5:00pm在庫整理。 夜協力してくれた現地ナース 達に謝恩夕食会。
11	21日	木	オルモック→マニラ (タクロバン経由)	7:00am～8:30amクリニック の片付け。 8:30am～10:30am 病院対策 本部にて在庫薬品、資材の 引き渡し他 10:30am オルモック発→ 0:30pmタクロバン着。 7:30pmタクロバン発→9:00 pmマニラ着。 JICA主催夕食会。
12	22日	金	マニラ	10:00am、JICA事務所にて報 告会。 午後記者会見および大使館 表敬。 夜大使館、JICA主催歓迎会
13	23日	土	マニラ→成田	午後マニラ出発→成田着。

主な 面会者	氏 名 職 位
	<p>亀井氏報告より保健医療関係者のみ抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パストール 病院災害対策本部長 ・ ロドリゲス オルモック病院院長 救助チーム担当（災害本部） ・ カストロ オルモック病院内科医師 救助チーム担当（災害本部） ・ マンソン オルモック病院外科医師 C H O（市衛生局）のDirector ・ エスピナ 市災害対策本部の調達担当 C H OのAssistant Director ・ フェルナンデス セブ市救助チームリーダー セブ市衛生局長
活動概要 詳細別紙 1	<p>1) Evacuation Center に於ける診療活動 11月12日午後開設準備。13日朝から20日夕刻まで避難民および周辺地域住民を対象とした診療活動を実施した。</p> <p>2) イピル村、リナウ村への出張診療 11月18日午後イピル村、19日午後リナウ村にて出張診療を実施した。</p> <p>3) ニーズの高い必要資機材、薬品の調達、供与 病院災害対策本部および市の災害対策本部のコーディネーション属し、ニーズを評価しチームで援助可能な対応について検討しJ I C A マニラ事務所の協力を得て別紙の協力を実施した。</p>
今後の活動 への課題と 検討事項	<p>1) 災害発生後7日目の救援としてはJ M T D Rのスキームで可能な活動をまずまずやれたように思われるが、特に現地業務費を十分手当して頂いた事とJ I C A マニラ事務所と大使館のロジスティックサポートのあった事の貢献が大きいと思われ、今後もこの点の強化が望まれる。</p> <p>2) 診療活動としては、今回現地スタッフの協力があったため現地本部のコーディネーションに属する事ができ、またサーベイランスにも協力できたが、もし現地スタッフがいなければ困難に直面するか独立した活動となり問題を生じたおそれがある。現地本部との関係の持ち方で今回の経験を今後に生かす方法を検討したい。</p> <p>3) 薬品、資材は今回現地で調達可能であったが、今後に備えて若干追加を考慮したいものが認められた。また、クロリンテンターやクロリン剤、簡易培養キット（水質検査キット）の携行診療記録のフォーム、情報収集のプランニングについて検討したい。</p>

<p>他機関活動 内容</p>	<p>1) 対策活動の中心はDSWD、赤十字、軍で市長を本部長としたオルモック市災害対策本部（OCCC）がコーディネートしていた。保健医療分野はオルモック病院長Dr. パストールを責任者として主に医療面をオルモック病院チーム、保健衛生面を市衛生局チームが担当していた。</p> <p>2) 災害当初は市の主要スタッフが自身の家族が被災した関係上組織的活動に参加できずレイテ州各地からの救援チームとセブ市の救援チームが実働部隊として活躍していた。 約50のNGOが物資分配や医療などにボランティアとして参加している。</p> <p>3) 外国、国際機関としては物的、資金供与以外は人的参加は確認できず（インドのNGOの医療チームが18日にイビルで診療活動を開始した事を確認できた以外は）我々の帰国時期に相前後してアメリカ、UNDP、およびアメリカのフィリピン支持団体が復旧援助への取り組みを開始したようであった。</p>
---------------------	---

活動内容（別紙1）

1. Evacuation Center での診療活動

他のクリニックの診療時間と合わせて7:00amに準備開始、8:00am～5:00pmの診療（0:00pm～1:30pm昼休み）を実施した。対策本部からサーベイランスへの報告要請があったため診療記録と報告を整備するべく（診療録A-6型カード）と受付台帳を作成した。同ECのクリニックは市衛生局チームの担当であったため、市衛生局から医療1名がコーディネーター（スーパーバイザー）として派遣され調整に当たってくれ、受付2名、通訳2名を配置。またサーベイランス報告作成に担当者1名を指名してくれた。高校の科学実験室をクリニックとして2ヶ所の診療スペースを設けた。

8:00am～10:00am 位が最も混雑し、午後は日曜日以外は比較的空いている為18日、19日に1-1-1のチームで出張診療に出た。（Roving Team）
咳止め、抗真菌軟膏、風邪薬、その他の傾向していない必要薬剤は現地医療チームの使用しているものを薬局にて購入した。診療内容は別紙にて報告。

2. 出張診療活動

私達が診療活動を始めた頃は多くの救援医療チームがRoving Teamとして村（バランガイ）の診療にあたり、Roving活動は「薬のばらまき」になるとの懸念が対策本部内にあった為、当初は要請がなかったが17日頃より各地のチームが引き揚げを開始し、対策本部から2ヶ所について以来があった為18日と19日の午後にイビル村とリナウ村に出張診療を行った。災害発生後にはこれら周辺地区の日常診療活動が停止していた為（これらの村の保健センターの担当スタッフを被災地に動員した為）この機会に投薬を希望する患者が殺到した。

特に19日のリナウ村近隣は遺体が多数海岸に打ち上げられた処で、且つコレラが2例に検出されており、被災地に援助が集中して周辺が無視されているという不満もあったとのことで行政上の配慮が目的としてあったようである。

3. 資機材の供与

事前にマニラ事務所スタッフからインフォームされていたが実際にオルモックに到着して早々に医療チームが来たことに現地対策本部から歓迎の風がないことをありありと示された。私達が単に医療活動をするだけでなく、現地のニーズに応じて保健分野で必要な援助を行う意図であることを伝え、実際にこれを実践する為に対策本部の会議にオブザーバー参加しニーズの把握に勤めた。私達の到着時は飲料水の確保、水の指導衛生、防疫が主要な課題となっており、また通信が市長室と病院の2本のHotlineを除いて全く途絶えている為無線機(Walky Talky)が必要とされており、私達が協力する姿勢を示すことによってこれを歓迎し期待感を示してくれるようになった。いくつかのニーズの内マニラ事務所の協力等によって次の諸点を重視できた

- ①水源地のクロリン化と残留塩素濃度の測定（水の専門家を派遣してもらった）
- ②無線機の供与
- ③Fogging Machine(噴霧消毒機)
- ④水タンクの供与。またオルモック滞在中には調達できなかったが便器（セメントが必要な為追ってマニラに依頼）や薬品、医療資機材の調達供与を要請リストに従ってマニラ事務所をお願いした。

活動拠点概要

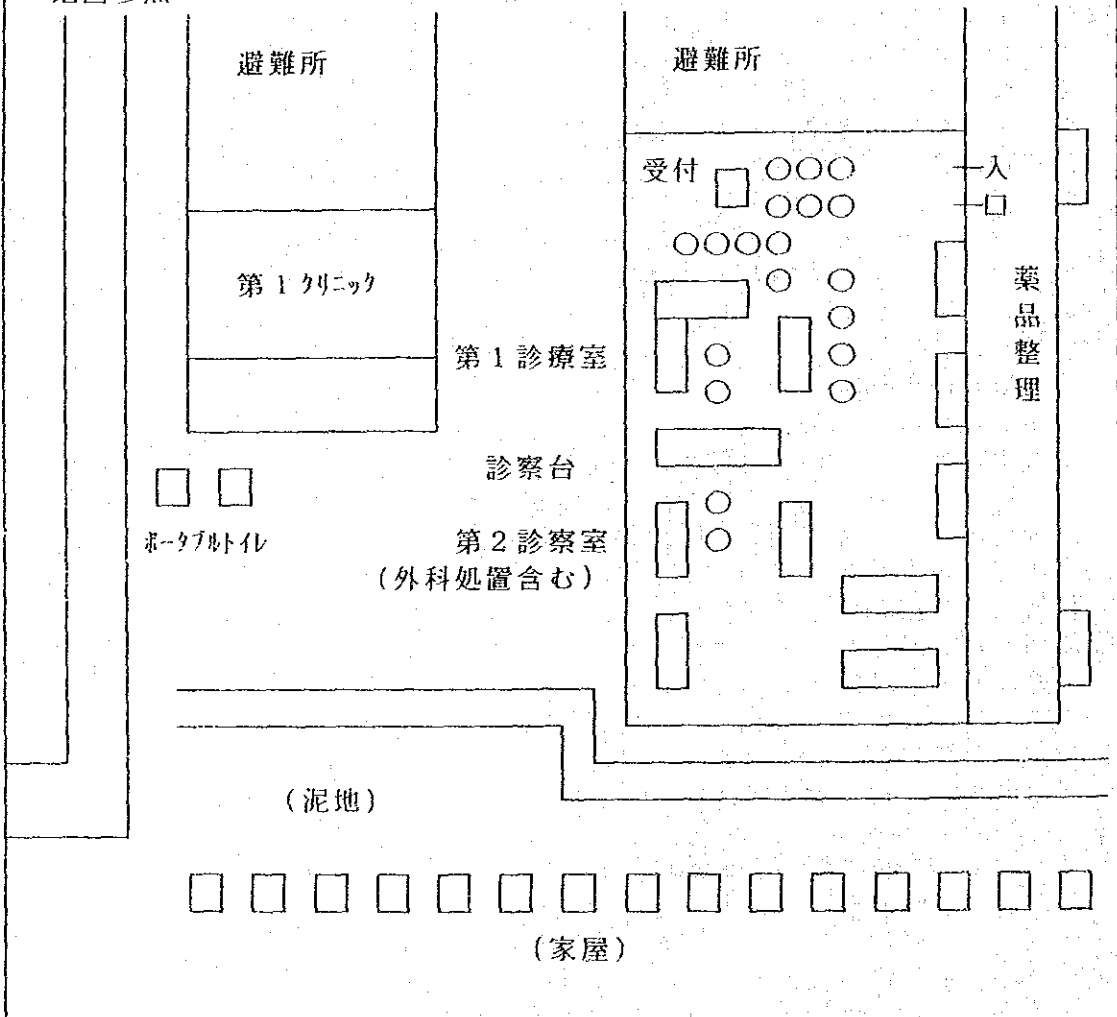
1. オルモック市

レイテ島の西岸にありセブとは船で5時間、マニラとは飛行機で約2時間の距離にあるが空港が使用不可能のためタクロバンから車で往復した(約2時間)。2つに分かれた川を中心とした扇状地に発達した市でこの川の氾濫によって一時的に水没した。到着時には通信、電気が機能せずホテルの水もホテルの前にホースで引いた水しかなかった。ホテルの電気は到着した日の夜間に一部開通、水は15日に出るようになった。しかし、電気が再開したのは帰国間近になってからで夜間の資料整理や記録作成等のDesk Workは困難であった。

2. クリニック

4つのEvacuation Centerのうち最大の高校ECに第2クリニックとして開設した。到着した日に救援医療チームが一部引き揚げて手やすになっており、本部のSuggetionに従ったのである。同地の避難民は約1,300人で被災した団フィリップ村に隣接していることから患者も多かったが翌週からは他の村からの訪問患者が増加した。

地図参照



診療レポート (統計資料: 患者数、疾病種等)

1. 診療記録、統計については概要のみ述べる
11月14日から20日までの7日間の診療期間中にクリニックを受診した患者は、新患 436名、再診40名+αであり、出張診療の受診患者数は 124名で、(19日には病院医師も1名参加しておりこれを含む)合計約600名となる。
2. 外科系患者数は災害時の受傷が化膿したものが多く、また釘刺傷や犬咬傷が破傷風や狂犬病との関係で注意を要した。それ以外はARI (呼吸器感染症)が多く特徴的なものとして真菌皮膚炎(大半は混合感染)や結膜炎が多かった。
18日以降は近隣の村落からの受診が増えたこともあって、結核等の慢性疾患の受診が増えたが、継続診療が必要であるためできるだけ既存施設に紹介した。
3. 肉親を災害で失った患者が多い為精神的不安が大きく、診療にはMental面の要請も期待されているように思われた。

所 感

1. 各団員が持場・役割を十二分に果たし災害7日目からの10日間の活動としては効果的に活動できたと思う。団員の活動だけでなく現地スタッフの協力が得られたこと、業務費の手当てがあったこと、JICAマニラ事務所や大使館の支援・協力が得られたこと及び水の専門家派遣に見られるように技協プロジェクトがフィリピンで展開していたこと(車と運転手を得られたことも含めて)が効果的な活動ができた大きな要因であったと思われる。
2. 朝早くからのハードな診療活動に耐えたMedical Staffの他、団長が診療から夜の会議出席までfullに活躍した現地のニーズに応えることに前向きな姿勢で一留していたことの意義が大きい。またコーディネーターがフィリピン在勤経験があったことでマニラ事務所とのコーディネーションがうまくいったことと思われる。
3. 今回はおそらく特殊事情があったと思われまた結果的に円滑に機能したが手続き関係や活動計画、相手先との関係の持ち方でJMTDRのような災害救助は通常のJICAのミッションとは異なる点が多く、コーディネーターはやはりJMTDRの活動や災害救助について一定程度のオリエンテーションやトレーニングを受けている方が望ましいと思われた。

国際緊急援助隊フィリピン台風災害救済医療チーム携行機材一覧

No.	資機材名 (ケース No.) (種別)	梱包大きさ (mm)	重量 (kg)	備考
1	医薬品 (1) (緑)	450 × 700 × 300	2.6	ジュラルミン
2	〃 (2) (〃)	450 × 700 × 300	2.5	〃
3	〃 (3) (〃)	450 × 700 × 300	3.5	〃
4	〃 (4) (〃)	450 × 700 × 300	2.5	〃
5	〃 (5) (〃)	450 × 700 × 300	2.4	〃
6	〃 (6) (〃)	450 × 700 × 300	2.3	〃
7	〃 (7) (〃)	450 × 350 × 250	1.5	保冷箱
8	医療資材 (1) (赤)	450 × 700 × 300	2.5	ジュラルミン
9	〃 (2) (〃)	400 × 600 × 300	1.0	ダンボール
10	〃 (3) (〃)	600 × 550 × 600	1.7	〃
11	〃 (4) (〃)	450 × 700 × 300	2.1	ジュラルミン
12	〃 (5) (〃)	400 × 600 × 300	1.4	ダンボール
13	〃 (6) (〃)	600 × 450 × 500	1.2	〃
14	〃 (7) (〃)	450 × 700 × 300	2.5	ジュラルミン
15	生活用資機材 (1) (黄)	450 × 700 × 300	3.2	ジュラルミン
16	〃 (2) (〃)	450 × 700 × 300	1.8	〃
17	〃 (3) (〃)	450 × 700 × 300	2.2	〃
18	〃 (4) (〃)	450 × 700 × 300	3.1	〃
19	オプション (1) (黄)	700 × 500 × 250	3.8	ジュラルミン
20	〃 (2) (〃)	550 × 400 × 200	1.0	〃
21	〃 (3) (〃)	480 × 350 × 400	2.5	ダンボール
22	〃 (4) (〃)	400 × 300 × 120	2	〃
22カートン		2.424 M ³	475 Kg	

J M T D R 医薬品
(緑 色)

Case No.	Item No.	一般名	商品名	規 格	数 量
1	1	重碳酸ナトリウム	メイロン	7% 50mlx5A	10
	2	エビネフリン	ボスミン	1% 1mlx20A	1
	3	硫酸アトロピン	硫酸アトロピン	0.5mg 1mlx10A	5
	4	1%塩酸リドカイン	1%キシロカイン	20ml	100
	5	ジアゼパム錠	セルシン錠	2mg100T	5
	6	ジアゼパム注	セルシン	2mlx10A	10
	7	10%フェノバルビタール	10%フェノバル	1mlx10A	5
	8	25%スルピリン	25%メチロン	1mlx100A	1
	9	ベンタゾシン	ベンタジン注	30mg 1mlx10A	5
	10	アスピリン	アスピリン	30T	10
	11	イブプロフェン	ブルフェン	100T	2
	12	デスラノシド	セジラニド	2mlx50A	1
	13	アミノフィリン	ネオフィリン	30A	2
	14	カルニゲン	カルニゲン	2mlx10A	2
	15	ニフェジピン	アダラート	10mg120cap.	10
	16	フロセミド	ラシックス	2mlx10A	5
2	17	スルファメトキサゾール+ トリメトプリム	バクタ	100T	5
	18	アンピシリン	ビクシリン	1gx10V	10
	19	アンピシリン	ビクシリン	250mgx100cap	5
	20	アンピシリン	ビクシリン ドライシロップ	1gx500P	1
	21	セファロチン・ナトリウム	ケフリン	1gx10V	10
	22	セファレキシム	L-ケフレックス	1gx100	2
	23	テトラサイクリン	アクロマイシンV	250mg100cap.	2
	24	クロラムフェニコール (注)	クロマイサクシネート	1gx1V	100
	25	クロラムフェニコール (錠)	クロマイ	250mg100T	5
	26	硫酸ストレプトマイシン	ストレプトマイシン	1gx10V	5
3	27	経口補水塩 (ORS)	(ORS)	5.250g (35g/人)	3
	28	生理食塩水	生理食塩水	20mlx50A	8

Case No.	Item No.	一般名	商品名	規格	数量
4	29	5%糖液	5%糖液	20mlx50A	4
	30	20%D- マンニトール	20% マンニトール	500mlx10V	1
	31	臭化ブチルスコポラミン	ブスコパン	10A	5
	32	胃腸薬	新三共胃腸薬	500T	1
	33	下剤	ラキソナリン	10T10 入	1
	34	止瀉剤	ロベミン	100cap	1
	35	塩酸ケタミン	ケタラール50	10mlx10V	1
	36	塩酸ケタミン	ケタラール10	20mlx10V	1
5	37	サイアミラール	イソゾール	0.5gx50A	1
	38	ニトラゼバム	ベンザリン	5mg100T	1
	39	塩酸ジブカイン	ベルカミンS	3ml10A	3
	40	塩酸リドカイン	キシロカインゼリー	30mlx5	2
	41	塩酸リドカイン	キシロカインスプレー	8x80g	5
	42	フマル酸クレマスチン	タベジール	1mg100T	1
	43	グルコン酸クロルヘキシジン	5%ヒビテン液	500ml	3
	44	ポビドンヨード	手術用イソジン液	250ml	8
	45	オキシドール	オキシフル	500ml	8
6	46	塩化ベンゼトニウム	ハイアミン液	500ml	5
	47	注射用蒸留水	注射用蒸留水	20mlx50	1
	48	テラコートリル	テラ・コートリル軟膏	25g	20
	49	リンデロンVG軟膏	リンデロンVG軟膏	30g	10
	50	クロタミトン	オイラックス	10g	10
	51	ワセリン	白色ワセリン	500g	1
	52	消毒用エタノール	消毒用エタノール	500ml	2
	53	クロラムフェニコール点眼液	点眼用クロマイ	500ml	1
	54	複合ビタミン剤	バンピタン錠	500T	1
	55	クレゾール	クレゾール	500ml	3
	56	バテックスハイ	バテックスハイ	12枚入	5
	57	点眼びん	点眼びん	100 入	1
	58	マルチスティックス	マルチスティックス	100 枚入	1
	7	59	破傷風トキソイド (冷蔵)	破傷風トキソイド	10mlV
60		インドメサシン (冷蔵)	インダシン坐薬	50mgx10	5

J M T D R 医療機材
(赤 色)

Case No.	Item No.	品 名	数 量
1	1	聴診器 リットマン型ステンレス	3
	2	小児用聴診器	2
	3	打診器 針ハケ付 大貫氏	2
	4	電子体温計 テルモ	5
	5	血圧計 タイコス DRA2	2
	6	小児用マンシエット 中、小	各1
	7	駆血帯 5m	1
	8	ペンライト MS	3
	9	ディスク舌圧子 200 枚入	1
	10	心電計 ECG6201 ロールペーパー 10巻付	1
	11	メジャー 自動2m 布製	1
	12	綿子 ディスコ 咽鼻用100 本入	1
	13	持針器 マッチュー 16cm	2
	14	止血かん子 コッヘル有直 14cm B/L	2
	15	ペアン 無直 14cm B/L	2
	16	モスキート 有直 12.5cm B/L	2
	17	モスキート 無直 12.5cm B/L	2
	18	外科せん刀 両鈍反 14cm	1
	19	外科せん刀片尖反 14cm	2
	20	ピンセット 有鉤 13cm	2
	21	ピンセット 無鉤 13cm	2
	22	メスホルダー No. 3	2
	23	替刃メス 20枚入 No.15	1
	24	替刃メス 20枚入 No.11	1
	25	消息子18cm	1
	26	縫合糸 滅菌、シルクブレード No.3	500
	27	縫合針 外科用10本入 3.5.7	各 2
	28	有鉤消息子 ローゼル	1
	29	気管へん平鉤 単鋭鉤 03-001-21 両鋭鉤 03-001-23	1 1
	30	縫合糸 滅菌、シルクブレード No. 5 & 7	各 500
	31	手術用手洗ブラシ	5
	32	ディスク手袋 100 枚入	5
	33	カルテ	100
	34	トリアージ タッグ	100

Case No.	Item No.	品名	数量
2	35	手術用手袋 滅菌 6、7	各 40
		” ” 6.5、7.5	各 60
3	36	輸液セット	200
	37	翼状針 21G、25G	各100
	38	活性炭入ディスポマスク 10枚入	10
	39	ディスポ注射針つき 2.5cc、5cc、10cc	各100
		20cc	50
	40	ディスポ注射針 21G x	100
		23G x	100
41	滅菌ガーゼ 30 x 25 cm ステラレーゼ	400	
4	42	滅菌シート 小 500 x 600	50
	43	消毒盤 27 x 21cm ステンレス	2
	44	ノーボン ステンレス 21cm	2
	45	手動式蘇生器 バックマスク No. 22000	1
	46	同上 マスク 大、中、小	各1
	47	エアウェイ ポリ製	1
	48	手動吸引器 足踏式	1
	49	喉頭鏡 ハンドル	1
	50	同上、ブレード 大、中、小	各1
	51	気管内チューブ カフ付 7.8、8.5	各10
	52	同上 カフなし 3.5、4.4、5.5、6	各3
	53	スタイレット	1
	54	開口器 エスマルヒ	1
	55	舌かん子コラン	1
	56	バイトブロック 大、小	各1
	57	吸引チューブ ネラトン Fr 4.6、8	各3
		同上 ネラトン Fr 10.13	各4
	58	気管切開チューブFr 30、32、36、38	各2
	59	小ベアンモスキート 10.5cm無鈎	2
	60	胃管カテーテル E6、8	各10
	61	尿バルンカテーテル Fr 18、8	各10
	62	紙ばん創膏9m/m x 10m	40
	63	タオル	10
	64	ハルンカップ	100
	65	軽便カミソリ	20
	66	救急ばん Mサイズ 19 x 72m/m 200枚入	1

Case No.	Item No.	品名	数量
5	67	脱脂綿 未滅菌 500g	1
	68	包帯伸縮 5.4 x 9m Nタイプ	10
		9 x 9m Nタイプ	10
	69	アルフェンスシーネ 2,3,4号	24
	70	網包帯ニュースネット 2,3,6	各1
	71	弾性包帯 Aタイプ	
		5cm x 4.5m 10本入	5
7.5cm x 4.5m 10本入		5	
		10cm x 4.5m 10本入	5
6	72	手術用ガウン LL:10、L:30、M:15	55
	73	キャップ	100
7	74	ナンコートボ	700
	75	リンスキンL	20
	76	ビニール小袋	2000

J M T D R 生活用資機材
(黄 色)

Case No.	Item No.	品 名	仕 様	数 量
1	1	強力ライト (水中)	BF-151	2
	2	強力ライト (蛍光灯付)	BF-769	2
	3	キャンドル用ランタン	CF-102	2
	4	補給用キャンドル	4本入	10
	5	トランジスターラジオ	ICF-7600A	1
	6	ウオークマン	WM-R15	1
	7	カセットテープ	120分	6
	8	双眼鏡		1
	9	3徳スコップ	T-3342	1
	10	電池 〃	単I 単III	100 100
2	11	コッヘル	CA-002	1
	12	フライパン	CA-221	1
	13	やかん	CA-083	1
	14	まな板セット	CC-141	1
	15	アルミカップ		12
	16	食器セット (アルマイト)	T-3079	4
	17	プラスチックボール	T-3070	8
	18	はし	100本入	1
	19	布たわし		3
	20	ふきん		5
	21	ポリタン	5ℓ	2
	22	〃	10ℓ	2
	23	ビニールバケツ	15ℓ	4
	24	缶切り		1
	25	中性洗剤		1
	26	クレンザー		1
	27	タオル		5
3	28	ティッシュペーパー		7
	29	トイレットペーパー		20
	30	石鹼	ミューズ	12
	31	粉石鹼	4g 120袋入	3
	32	大工セット		1
	33	裁縫セット		1
	34	ほうき		1
	35	マッチ		5

Case No.	Item No.	品名	仕様	数量
4	36	文房具セット		1
	37	ミニ文房具セット		2
	38	乾湿温度計		1
	39	ボールペン	黒、赤、青	各15
	40	マジック	7色入	1
	41	カ	大、中	7
	42	ノート	B5	5
	43	レポート用紙		4
	44	用せんバサミ		12
	45	セロテープ		2
	46	のり	スティック	5
	47	接着剤		5
	48	チョーク	白、赤	各12
	49	タッグタイトル	10袋	1
	50	カラーテープ	3色	5
	51	封筒	大、中、小	各10
	52	クリップ	大、小	各1
	53	電卓		2
	54	ガムテープ		5
	55	ビニールひも		1
	56	輪ゴム		1
	57	フィルム	36枚	30
	58	アーミーナイフ		2
	59	ポリ袋	大、中、小	各120
	60	軍手		24
	61	防水スプレー	スコッチガード	2
	62	ろ水器	真清水	4
63	国旗		2	
64	メモ用紙		5	
65	赤・青鉛筆		12	
66	鉄		2	
67	定規		2	

フィリピン オプショナル
(黄色)

Case No.	Item No.	品 名	仕 様	数 量
1	1	インマルサット (本体)		1
2	1	インマルサット (付属品)		1
3	1	発電機		1
4	1	5ℓ 携帯タンク		1

調整員キットリスト (緑色ケース)

物 資 名	仕 様	数 量
ビデオ (本体)	SONY	1
〃 (充電機)	〃	1
〃 (充電池)	〃	1
カメラ		1
フィルム	36枚撮り	2
8mm ビデオ	120分	2
ワッペン		20
シール (黄)		3 × 9枚
〃 (青)		3 × 38枚
〃 (大) A		21
〃 (大) B		29
英文薬品取り扱い説明書		1
英文免許証		1
携行機材ジュラルミンの鍵	封筒入り	4

(18) 西サモア・サイクロン災害

物資供与の経緯および概要

12月6日から10日にかけて、サイクロン「ヴァル」が南太平洋地域を襲い、同地域の国々に大きな被害をもたらした。特に同サイクロンの直撃を受けた西サモアでは、瞬間最大風速60～70メートルという同国観測所の記録開始以来最大の暴雨風が100時間以上にわたり、首都アピアを初め同国全土で死者12名（12/16現在）他住宅・農作物などにも甚大な被害をもたらした。

我が国としては、西サモア政府よりの要請に基づき、同国との友好関係および人道的見地に鑑み緊急援助を行うこととした。

1	国名	西サモア
2	災害区分	サイクロン
3	災害発生時期	1991年12月6日
4	災害の規模	死者 12人、被災者 約 17 万人
5	活動区分	援助物資の供与 簡易水槽、ポリタンク
6	供与時期	1991年12月

被害状況：

人 的 被 害		物 的 被 害	
死者	12人	家屋損壊	約3千戸
家屋喪失	約2万5千人	同国全家屋の8割が被災	
被災者	約17万人	病院・電力・水道・通信網の損壊、道路の寸断	
		船舶の座礁	
		農作物の8割以上が壊滅	

(12月16日現在)

12月17日（日）午後11時30分、外務省より西サモア国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

記

1. 外務省及びJICAの対応
西サモアが今次のサイクロン災害により多くの人的、物的被害を蒙ったことに対し、以下の内容の緊急援助を実施する。

(1) 援助物資の供与（概算1,085万円、含輸送費）

成田備蓄分 ホリタンク (10ℓ)	1,420個
簡易水槽 (2,000ℓ)	30個

(2) 災害無償資金協力 10万米ドル (1,290万円相当)

2. 災害状況 (12月16日国家災害調整員会 (NZ外務省) 発表)

(1) 台風被災地域：西サモア、(サバイ島、ウボル島)

(2) 被災時期：1991年12月6日～10日 (現地時間)

(3) 台風名：Val (ヴァル)

(4) 台風の規模：最大風速260Km/H
雨量殆どなし

(5) 被害総額見積：535百万NZドル (約3億米ドル)

(6) 人的被害：死者 12名 (内6名サバイ島)
家屋喪失者 25,000人
被災者 170,000人

(7) 物的被害

① 建物被害 40%
公共建物 95%
民家

② 農業被害
主食 (タロ芋、ヤム芋) 全滅
フルーツ関係 全滅
家畜 (豚、鶏、牛) 85%
漁船 60%
森林 6%

③ 道路被害
サバイ島北部道路が不通
ウボル島東南部道路が不通

④電力供給への被害
12月17日現地、電力は一部供給。復旧にはなお数日間と36百万ドル(約2億円)が必要

⑤通信の被害
アビア(首都)市内80%が不通

⑥港湾、海運の被害
大きな被害はなく、我が国の無償協力により本年3月完成した防波堤によりアピア港への被害はなかった。同じく我が国の無償協力波で与えた遠船「レディ」は12月13日からウル島とサバイ島の定期連絡船として就航している。

⑦病院、学校への被害
サバイ島の病院：相当な被害を受けた模様
サタウアの診療所：同上
(我が国の無償による)
アビア中央病院：屋根の一部を飛ばされた。
患者の一部を避難
アビア市内の小中学校：屋根、窓ガラス、に被害を受けた。小中学校も同じような被害規模と思われる。

⑧空港、航空業務の被害
フアオ国際空港は7日から10日まで閉鎖されたが11日に再開された。現在、ネシア航空及びエアーニューギランド及びニューギランド軍用機が到着した。

3. 我が国の緊急援助の理由
(1) 2年前にも100年ほどと比べるに、今度の被害は西サモアに及ぼした。この被害は、我が国の緊急援助の必要があり、従って、西サモアの被害は、我が国の緊急援助の必要がある。

(2) 西サモアは、我が国の緊急援助の必要がある。西サモアは、我が国の緊急援助の必要がある。西サモアは、我が国の緊急援助の必要がある。

4. 西サモア政府の対応
12月10日、西サモア政府は、我が国の緊急援助の必要がある。12月17日、西サモア政府は、我が国の緊急援助の必要がある。

西サモア政府への緊急援助物資については、成田備蓄分の現地到着が下記の通り確認された。

記

1. 成田備蓄分輸送日程（ポリタンク、簡易水槽）

12月18日（20：40）	成田発（NZ024）
19日（13：05）	NZオークランド着
21日	アピア着（NZ軍用機による）

なお、JICAアピア事務所からの連絡によると、援助物資は全量12月21日（現地時間）予定通りNZ空軍機にてアピア、ファレオオロ国際空港に無事到着した旨連絡越した。

また、同援助物資は、到着後直ちに援助物資倉庫に移送し、収納された。今後は国家災害対策委員会の下部機構である救援物資配布委員会（Distribution Committee）によって分配される予定である。

上記NZ空軍機による日本からの当該援助物資の他は、バスケット80ケースだけであり、積荷のほとんどは日本の援助物資により占められていた旨、合せ連絡越した。

なお、今次援助物資の輸送について当方としては東京からアピアまでの間定期商業便にて輸送する予定であったが、NZ政府からの申し出により急遽NZオークランドよりアピアまでNZ軍用機を使用し、予定より早くアピアへ到着した。

各国及び国際機関からの援助

US\$

国連機関および

国際機関 : UNDP/FAO : 森林・漁業計画
 : F A O : 農業面への復旧援助 (種など) 100,000

各国政府 : オーストラリア : 緊急援助 395,800
 米 (1,600MT) 763,300
 : カナダ : 緊急援助 (西サモア赤十字経由) 26,100
 : フィジー : 救援資金 32,600
 : ニュージーランド : 救援資金 1,476,800
 : 英国 : 資機材、他 376,000
 : 米国 : 緊急援助 614,500

N G O : Caritas Germany : 緊急援助 32,900
 : Australian Catholic Relief : 救援資金 19,100
 : Corps Mondial de Secours : 医療チーム
 : International Federation of
 Red Cross and Red Crescent : 太平洋州代表経由) 74,100
 : South Pacific Forum : 緊急援助 13,100
 : United Church Australia : 緊急援助 15,300
 : World Vision Australia : 緊急援助 15,300

(19) イエメン地震・地滑り災害

物資供与の経緯および概要

11月22日（現地時間03:40）Sana 南約140km 兎壺するイップ州ウディン県及びハズム・ウディン県（両県約3万戸、人口約22万人）において、マグニチュード4.4の地震が発生し、その被害は周辺5県にまで及んでいる。

その後も同地域ではマグニチュード2～3の群発地震が続き、家屋への被害が広がっている他、各地で地滑りが発生した。

我が国としては、イエメン政府よりの要請を受け、人道的見地より緊急援助を行うこととした。

1	国名	イエメン共和国
2	災害区分	地震・地滑り
3	災害発生時期	1991年11月22日
4	災害の規模	死者 11人、負傷者 35人、 被災者 約 30万人
5	活動区分	援助物資の供与 毛布、グループテント
6	供与時期	1992年1月

被害状況：

人的被害		物的被害	
死者・行方不明者	11人	家屋損壊	8,000戸
負傷者	35人		(内全壊1,700戸)
被災者	30万人	学校舎被害	130
(シェルターを必要とする者 4万家族)			

(12月8日 UNDR0情報)

各国および国際機関からの援助状況：	US\$
国連機関および国際機関：UNDR0	：救援資金 25,000
：UNICEF	：薬品、食料パック 86,000
各国政府	：米国
	：救援資金 5,000

平成4年1月17日(金)午後3時、外務省よりイエメン国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

記

1. 外務省およびJICAの対応

昨年11月22日イエメンで発生した地震・地滑り災害により多くの人的、物的被害を蒙ったことに対し、以下の内容の緊急援助を実施する。

(1) 援助物資の供与(概算1,480万円含輸送費)

ピサ備蓄分

グループテントS(10~12人用) 20張

毛布(普通用) 3,000枚

2. イエメンからの要請内容

平成4年1月5日付外務公信により、昨年12月19日及び30日イエメン、サーレハ・アフマド治安・国防担当副首相(緊急救援対策委員会委員長)より鰐淵日本大使に対し緊急援助の要請があった。併せてワジール在京大使より重ねて要請があった。

3. 概況

昨年11月22日イエメンのイップ州ウディン及びハズム・ウディン県(両県には約3万戸の家屋があり面積約450万平方キロ、人口約22万人)において発生(4.4マグニチュード)した。その他の周辺5県にも被害が及んでいる。その後現在まで群発地震(マグニチュード2~3)が続いている。この為、家屋の亀裂が日々広がっている他各地で地滑りによる被害も出ている。

被害状況は下記の通りであるが、イエメンの家屋は石造りである為、甚大な被害をもたらすので被災地の全住民が新たな大規模な地震発生を恐れて戸外での生活を余儀なくされている。

4. 被害状況(イエメン副首相及びイップ州知事の説明)

(1) 人的被害

死者、行方不明	11名
負傷者	35名
被災者	30万人
シェルターを必要とする者	4万家族

(2) 物的被害

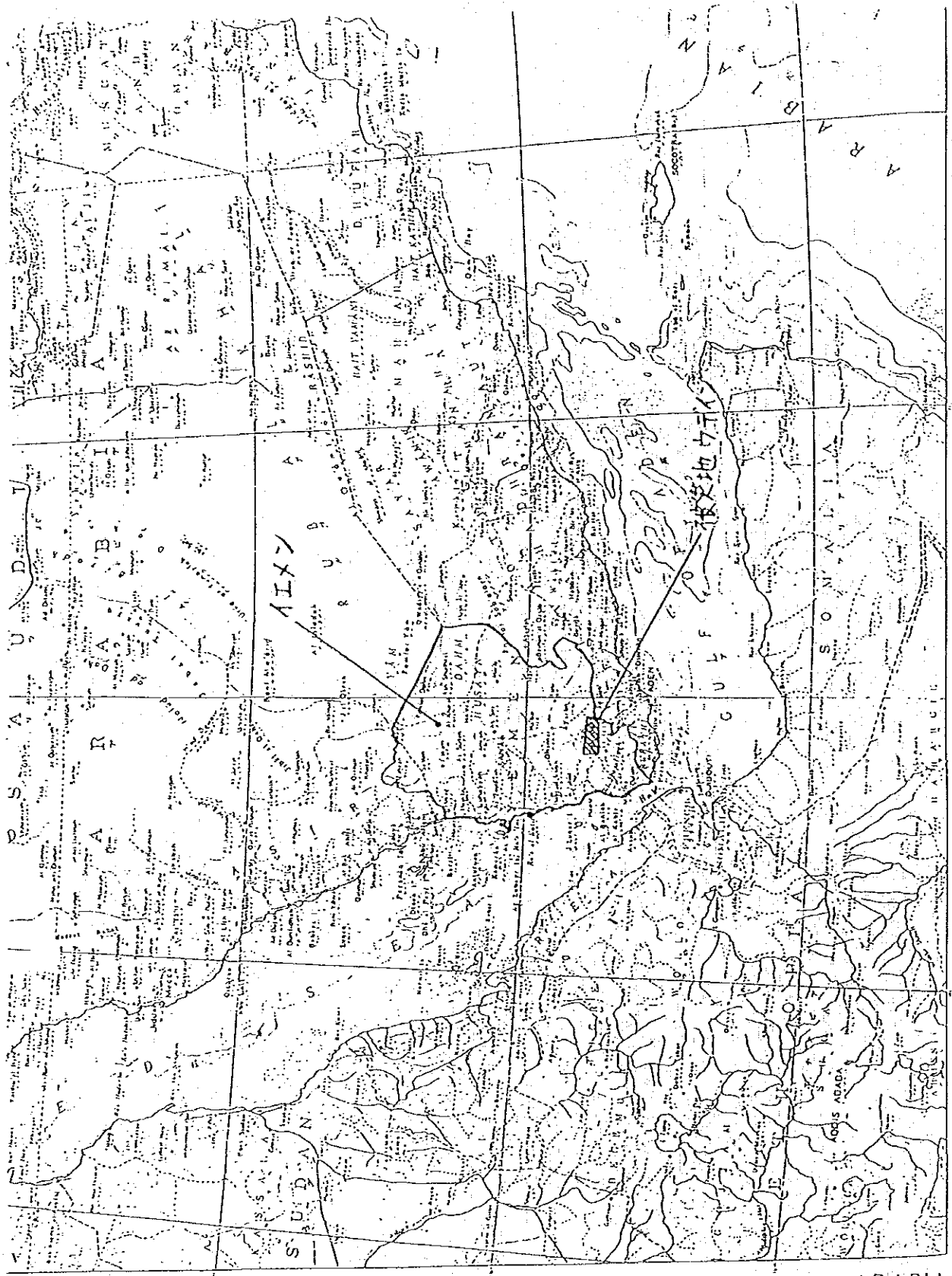
損壊家屋	8,000戸(内1,700戸は全壊)
学校損壊	105校

5. イエメン政府の対応

- (1) 地震発生後首都サナアに国家災害・緊急援助最高委員会設置。(委員長、国防治安担当副首相)
- (2) 同国政府は上記委員会に対し、1,000 万リアル(約83万ドル)の支出を決定し、併せて毛布やテント等の緊急物資の配布を実施。
- (3) 被災地のイップ州は上記最高委員会の実施委員会として州知事を長とする緊急委員会と被災各県にその支部を設置した。併せて震災地域復興実施事務所を各々設立し、被害状況調査及び復興計画を担当すると共に諸外国からの援助受け入れの窓口機関となっている。
- (4) これまでイエメン政府により供給された援助物資はテント1,600 張(含む大型テント100 張)毛布1万枚等のみであった。さらにテント2~3万張、毛布8~10万枚が必要である。

6. 我が国の援助が必要な理由

- (1) イエメンは一昨年(1989年)の南北統合による財政負担及びその後湾岸戦争においてイラク寄りの政策をとった為に、従来の湾岸、アラブ諸国との関係が悪化し、経済困難に直面している。
- (2) 特にサウディ・アラビアとの関係悪化により、百万人の出稼ぎ労働者が帰還したことにより、移民送金がなくなり、失業者があふれている状況にある。
- (3) イエメンは急速に石油開発が進展しており、(我が国企業も参加)ホルムズ海峡を經由しない石油供給源として将来性が高い上、紅海地域の安全確保の観点より重要な国であり湾岸戦争により悪化した湾岸諸国との関係修復を目指す現政権を支援することは我が国の将来的利益にかなう。
- (4) 特に上記の経済、財政的に危機的状況にあり、孤立感を深めている同国を援助することは、同国政府、国民にアピールするところ大であると考えらる。
- (5) 我が国はD A C諸国の中では、対イエメン最大の援助拠出国であり(1989年のD A C実績は第1位で約3.8%)我が国に対する期待は極めて大きい。



ARABIA
F 5 C 7

(20) トルコ地震災害

物資供与の経緯および概要

1992年3月13日午後7時20分（日本時間3月14日未明）、トルコ共和国東部のエルジンジャン県を中心とする地域に、マグニチュード6.8の地震が発生した。

この地震により、エルジンジャン県・ピンキョル県・トウンジェリ県・ディヤルバグル県およびカイセリ県の各県にまたがる地域で、多数の死傷者・家屋喪失者などの人的被害と、建物倒壊などの甚大な被害が生じた。特に被害の大きいエルジンジャン県では、建物の3分の2が倒壊しており、中でも都市部の多層建築物倒壊による被害が大きい。

我が国としては、トルコ政府の要請を受け、両国間の友好関係のみならず、人道的見地に鑑み緊急援助を行なうこととした。

1	国名	トルコ共和国
2	災害区分	地震
3	災害発生時期	1992年3月13日
4	災害の規模	死者 547人、負傷者 2,000人以上、被災者 約 23万人
5	活動区分	援助物資の供与 毛布、グループテント、簡易水槽、ファミリーテント、発電機
6	供与時期	1992年3月

被害状況：

人的被害		物的被害	
死者	547人	家屋破壊	4,783戸
負傷者	2,000人以上	家屋損壊	13,385戸
被災者	約 230,000人		

(4月8日付 UNDR0情報)

平成4年3月14日(土)午後10時30分、外務省よりトルコ国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

1. 外務省及びJICAの対応

トルコが今次地震により多くの人的、物的被害を被ったことに対し、以下の内容の緊急援助を検討する。

1) 医療チームの派遣

目的：地震災害によって負傷した人々への医療活動を実施する為、

期間：3週間

人員：(第1案) 医師3名、看護婦6名、調整員3名

(第2案) 医師2名、看護婦4名、調整員3名

経費：(第1案) 約2,180万円

(第2案) 約1,760万円

2) 医療チーム用携行機材購送費

約4,700万円(含む輸送費)

①本邦調達分(約4,380万円、含む輸送費)

携行資機材(医薬品、医療資材等1式)

非常用食料品

エア TENT 4張及び付属品

②UNIPAC調達分(約317万円)

医薬品、医療資材(EMERGENCY HEALTH KIT 2セット)

3) 総経費：

第1案：約6,900万円

第2案：約6,460万円

2. 被害状況(現地ニュースによる報道)等

1) 主な被災地域：トルコの首都アンカラから東へ600Kmのエルジインジャン他ピンギョル、トウランジェリ、ディヤルバクル及びカイセリ等当部及び東南部地域(添付地図参照)

2) 発生時期：1992年3月13日(金)19時19分(現地時間)

3) 規模：マグニチュード 6.75

4) 被害内容：

①人的被害：死者276人

負傷者300人

②物的被害：エルジインジャンでは建物の3分の2が倒壊。

社会保険病院、公官庁建物、公務員寮、アパート10棟等他多数倒壊、また、エルジインジャンへの電話線が切断された。

3. トルコ政府の対応

1) インターナショナルアピールを3月14日午後9時15分(現地時間)に発出し、次の内容の要請を行った。

①医療チーム又は救助チーム

②医薬品

③テント、毛布、簡易水槽

2) オザル大統領、デミレル首相は3月14日被災地を視察。

3) 地震発生後10時間以内に航空機6機により食料60トン、テント300張、毛布10,000枚を被災地へ輸送。

4) ゼルギコン・コルチュルク国際機関課長によるとトルコ政府は、日本からの支援を喜んでお受けする旨回答越した。

5) 日本への要請内容は医療チームの派遣及び医療物資、被災者発見のための探査機器の供与。

4. 各国の援助状況

1) スイスは、救助チーム(第1陣、第2陣)の派遣及び物資供与を実施。

2) ヨーロッパの救助チーム(イギリス、フランス、ドイツ)は、トルコ政府からの要請待ち。

記

1. 外務省からの連絡事項

緊急援助については、外務省は、トルコ側の受け入れ態勢を再確認した上で実施したいとして、在トルコ日本大使館を通じ3月15日午後6時を期限として先方に照会中であったが、同日午後8時15分、先方より「緊急援助隊の派遣申し出には感謝するが、被災地は既に多数の救助チームが活動中であり、当面人的援助は必要ないため、緊急援助隊の派遣はお断りする。」との回答があり、今回の緊急援助においては、物資供与のみ実施することとした。

なお、物資供与の内容は以下のとおり。

1) シンガポール備蓄分

・発電機(200V/50HZ) 15台

2) ピサ備蓄分

・ファミリーテント(寒冷地用) 10張

・グループテント(L:15人用) 20張

・グループテント(S:12人用) 20張

・毛布 3,500枚

・毛布(寒冷地用) 1,200枚

・簡易水槽(3,500ℓ) 10台

トルコ政府への緊急援助物資については、シンガポール備蓄分、ピサ備蓄分の現地到着が下記の通り確認された。

記

1. シンガポール備蓄分（発電機）

3月17日 TK124便、アンカラ到着
3月21日 エルジンジャン到着（被災地）

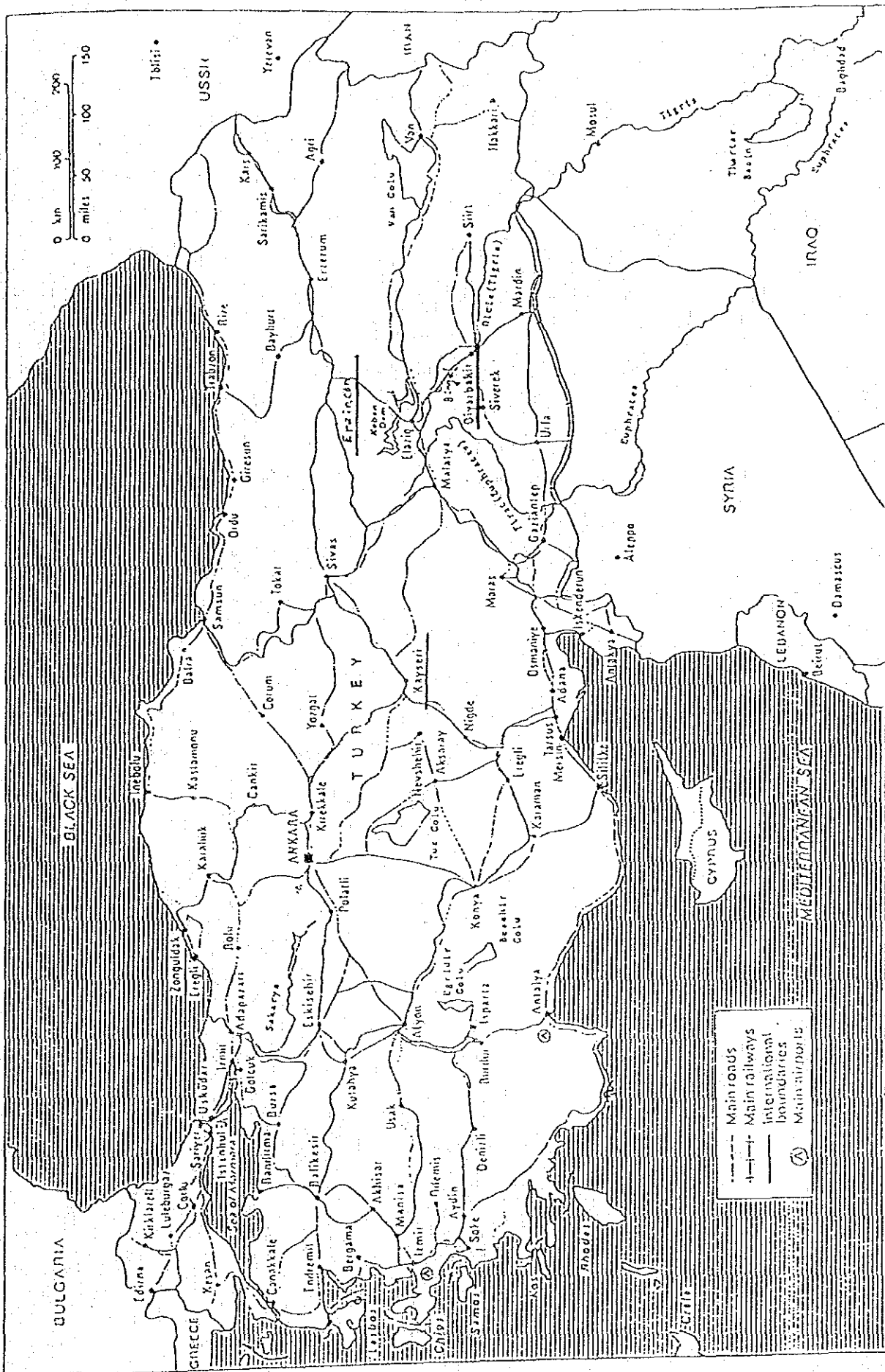
日本大使館員がアンカラ空港にて引取り、同空港内にある赤新月社に引渡した。

2. ピサ備蓄分（ファミリーテント、グループテント、毛布、簡易水槽）

3月18日 第1便 エルジンジャン到着（被災地）
3月19日 第2便 同 上 （ 〃 ）

エルジンジャン空港では、両フライト共 UNDR0 代表2名が日本政府に代わり、全物資を公式にエルジンジャン副知事に引渡し、被災者への早急な配給のためにトルコ赤新月社が最終的に委託された。

トルコ政府は今次の地震災害救済に対する日本政府の緊急援助に対し多大なる謝辞を表明した。



各国および国際機関からの援助状況		US\$
国連および		
国際機関	UNDRO : 毛布(5,000)、救援物資	50,000
	UNICEF : 医療キット(10)、医薬品、医療資材、 テント(1,300)、毛布(8,000)、簡易水槽(20)	530,000
WHO	: 救援資金	10,000
	通信関係の専門家、救援物資	..
UNDP/Ankara	: 救援物資購入資金	50,000
EEC	: MSFへ医療チーム(6)、救援物資購入資金援助	275,000
	ベルギー赤十字へ救援物資購入資金援助	252,500
	テント、ヒーター (UNHCRより)	97,500
Council of EUROPE	: 電気通信関係への救援資金	8,929
各国政府		
米国	: 救援資金	325,000
	救援物資	176,356
英国	: 救援資金、テント(600)、プラスチックシート(500) (トルコ赤十字経由)	333,333
	救援資金(仮設住宅資材、テント用) (UNDRO経由)	87,719
	MOD Operation	36,842
カナダ	: IFRC経由トルコ赤十字へ救援資金	296,610
オーストリア	: "	185,185
ルーマニア共和国	: 毛布(1,700)、テント(100)、調理器具(1,000) First Aid Kit(100)	..
イラン	: テント(800)、毛布(3,000)、食糧	..
モナコ	: テント、食糧などの救援物資購入資金	14,286
オランダ	: テント(560)	320,805
ノルウェー	: テント(857)、電熱器(10)	727,008
オーストリア	: 赤十字、Caritas 経由 テント(82)、毛布(2,000)、野営ベッド(832)	301,724
ベルギー	: 救援資金	148,200
	テント(40)、毛布(3,000)、 EECの救援物資輸送、MSF-チーム(6)	..

デンマーク	: 救援資金	39,936
フィンランド	: 冬用テント(500)	287,356
	毛布(5,200)(UNDRO経由)	101,609
フランス	: 救援資金(Humanitarian Aid)	178,571
	捜索・救助チーム(80)、医療チーム(15)、 軍隊(60)の各チーム派遣	..
ドイツ	: 捜索・救助チーム(70)、捜索犬(6)、 飲料水フラット(1)、FIV赤十字救援物資の輸送	..
ギリシャ	: 捜索・救助チーム(25)、捜索犬(20)、 救急車、医療資材、 チーム(50)、プラズマ(5)、毛布(1500)、テント(100)	..
イタリア	: 捜索・救助・医療チーム(50)、 救援物資、医療資材	..
	毛布(5,200)(UNDRO 経由)	37,200
	シルク、救援物資購入資金(UNDRO経由)	803,212
San Marino	: 毛布(1,350)、テント、ヒーター、OMS/KIT(UNDRO経由)	9,639
ルクセンブルク	: 毛布(400)、スリーピングバッグ(400)	..
ポルトガル	: 救援資金	14,286
ロシア	: テント、プラズマ、毛布、発電機他	35,000
スウェーデン	: テント20人用(320)、技術者チーム(4)	830,000
スイス	: 捜索・救助チーム(74)、捜索犬(18)、 救援物資(20Mt)	..
チェコスロバキア	: 毛布(4,000)、テント大(4)	20,619
パキスタン	: 毛布(2,000)、テント(315)	..
ブルガリア	: 救援物資	23,322
クウェイト	: 救援物資	..
サウジアラビア	: 救援物資	..
赤十字団体	: オーストリア: テント(100)、毛布(1,000)、野営ベッド	..
	英国: 英国の救援物資輸送	52,632
	カナダ: 救援資金	8,475
	デンマーク: 救援資金	79,872
	フィンランド: 救援資金	57,471
	フランス: 貯蔵用テント(10)	..

列強共和国	: 毛布(1700)、テント(100)、First Aid Kit(100)、調理器具	・ ・
ドイツ	: 捜索・救助チーム(21)、捜索犬(3)、通信機材・技師、冬用テント 20㎡(200)、貯蔵テント150㎡、80㎡(各2)	554,878
イラン	: テント(500)、毛布(3,000)、豆・穀類(55Mt)	・ ・
ノルウェー	: テント(15㎡)(334)、テント(gama)(500)、テント(16㎡)(23)、医療テント用ヒーター(10)	727,000
スウェーデン	: 救援資金	5,705
スイス	: テント(120)、多目的用タール布(2120)、タール布	86,577
ハンガリー	: 救援資金	1,342
アイスランド	: 救援資金	16,913
トルコ	: テント、毛布、食糧、移動病院他	・ ・
韓国	: 救援資金	10,000
リビア	: 救援資金	6,711
ポーランド	: 毛布(4,000)	26,856
スペイン	: 救援資金	48,544
米国	: 救援資金	50,000
オランダ	: テント(560)	・ ・
日本	: 救援資金	192,617
ALLIANCE	: 救援物資	・ ・
IFRC	: 救援物資	50,000
非政府団体	: DIAK WERK/CARITAS GERMANY : 救援物資	182,927
	International Rescue Corps(IRC)U.K. : 捜索・救助チーム	・ ・
	MSF/Europe : ファミリーテント(200)、毛布(3,000)、診療所(2)	・ ・
	S C F : 幼児・子供用ミルク(60ケース)	
	Earth Engineerring Research Institute : 調査専門家(4)	・ ・
	Secours Catholique : Caritas/Turkeyへ救援資金援助	89,286
	O X F A M : 救援資金	43,860
	GER.RES-DOG ASC:救助チーム、救助犬	・ ・
	SWED. J. Medicine: 救援物資	40,000

(21) ケニア流入ソマリア避難民

物資供与の経緯および概要

客年1月パレ政権が倒されて以来、ソマリア国内は政治的混沌が続いており、首都攻略に成功したグループによる暫定政府も実質的機能を果たせないまま、同グループは内部分裂、国内各地においても氏族を背景にした複数の集団が割拠し、ソマリアは現在無政府状態となり、治安は極度に悪化している。こうした中で多数の避難民が発生、隣国のケニア、エチオピア、ジブティに流入している。ケニアへの流入避難民は本年2月末時点で14～15万人と言われており、ソマリア国境沿いの複数のキャンプに居留。リボイ・キャンプのみでも1日平均500人の割合で増加している。現在の避難民数はキャンプ自体の収容能力を既に越えており水、食料、医薬品などが大幅に不足し、ケニア政府は国際社会に対し緊急援助の要請を行った。

我が国としては、ケニア政府の要請並びに流入ソマリア避難民の実情に鑑み、物資の緊急援助を行うこととした。

1	国名	ケニア共和国
2	災害区分	流入ソマリア避難民
3	災害発生時期	1992年2月～
4	災害の規模	流入避難民数 約15万人
5	活動区分	援助物資の供与 医薬品、医療資材、ファミリーテント、 プラスチックシート、毛布
6	供与時期	1992年3月

各国および国際機関からの援助状況：

国連機関および	US\$
国際機関：UNDRO	： 救援資金 25,000
UNICEF	： 薬品、食料バック 86,000
各国政府：米国	： 救援資金 5,000

平成4年3月25日(水)午後6時、外務省よりケニア国への緊急援助を実施する旨連絡越した。

記

1. 外務省およびJICAの対応
ソマリアからケニアへ流入した避難民救済の緊急援助を以下の内容で実施する。

(1) 援助物資の供与(概算 1,759万円)

① UNIPAC(コペンハーゲン) 調達分
医薬品及び医療資機材 1セット

② ピサ備蓄分
毛布 2,000枚
プラスチックシート 20巻
ファミリーテント(5/6人用) 50張

(2) 緊急人道援助資金: 220万ドル(UNICEFを通じて、母子救済、保健衛生分野)

2. ケニア政府からの要請内容

ケニア政府は国際機関と(UNHCR、UNICEF、WFP)合同で現地調査を実施し、本調査結果を踏まえて、2月26日内務省より我が国を含む援助国に対し、強い支援要請があった。

3. 概要

客年1月ソマリアのバレ政権が倒されて以来、ソマリア国内は無政府状態が続いており、内戦による多数の避難民が発生し隣国のケニア、エチオピア、シブティに流入している。

ケニアへの避難民は2月末時点で14~15万人と言われており、ソマリア国境沿いの複数のキャンプに居留している。同キャンプ内においては、水、食料、医薬品等の物資、キャンプの運営、警備スタッフの人員数が大幅に不足している。1日5~10名の死亡者が出ており、この内半数以上が5歳未満の乳幼児であり、栄養失調又は疫病とされている。これに加えて、伝染病蔓延の危険が高まっており、ケニア政府及び関係国際機関は、国際社会に対し、緊急援助の要請を行っている。

4. 避難民の状況(3月18日現在)

リボイ	58,000人
イフォ	31,000人
ウタンゲ	21,000人
マジンゴ・モスク	1,300人
セント・アレ・スクール	5,600人
ティカ	4,000人

5. 我が国の援助が必要な理由

- (1) 数年来の内戦により、ソマリア国内での死傷者は数万とも言われており、流出する避難民の数も急激に増加している。避難民の早期帰還の可能性は殆どなく、これら避難民に対する迅速な救援活動が望まれている。アラブ、アフリカ諸国や欧米援助国等も支援を表明している。
- (2) 近日中に数万人の規模で避難民の増加が見込まれており、緊急にテント、プラスチックシート等の大量の物資が必要とされている。これらの援助についてUNHCR及びケニア政府から我が国に対し強い要請がなされた。
- (3) 財政的に逼迫しているケニア政府としては、独力で大量の避難民に対応するのは困難であり、我が国はケニアに対する最大の援助国であるところからケニア政府のみならず他の援助国からも大きい期待を寄せられている。

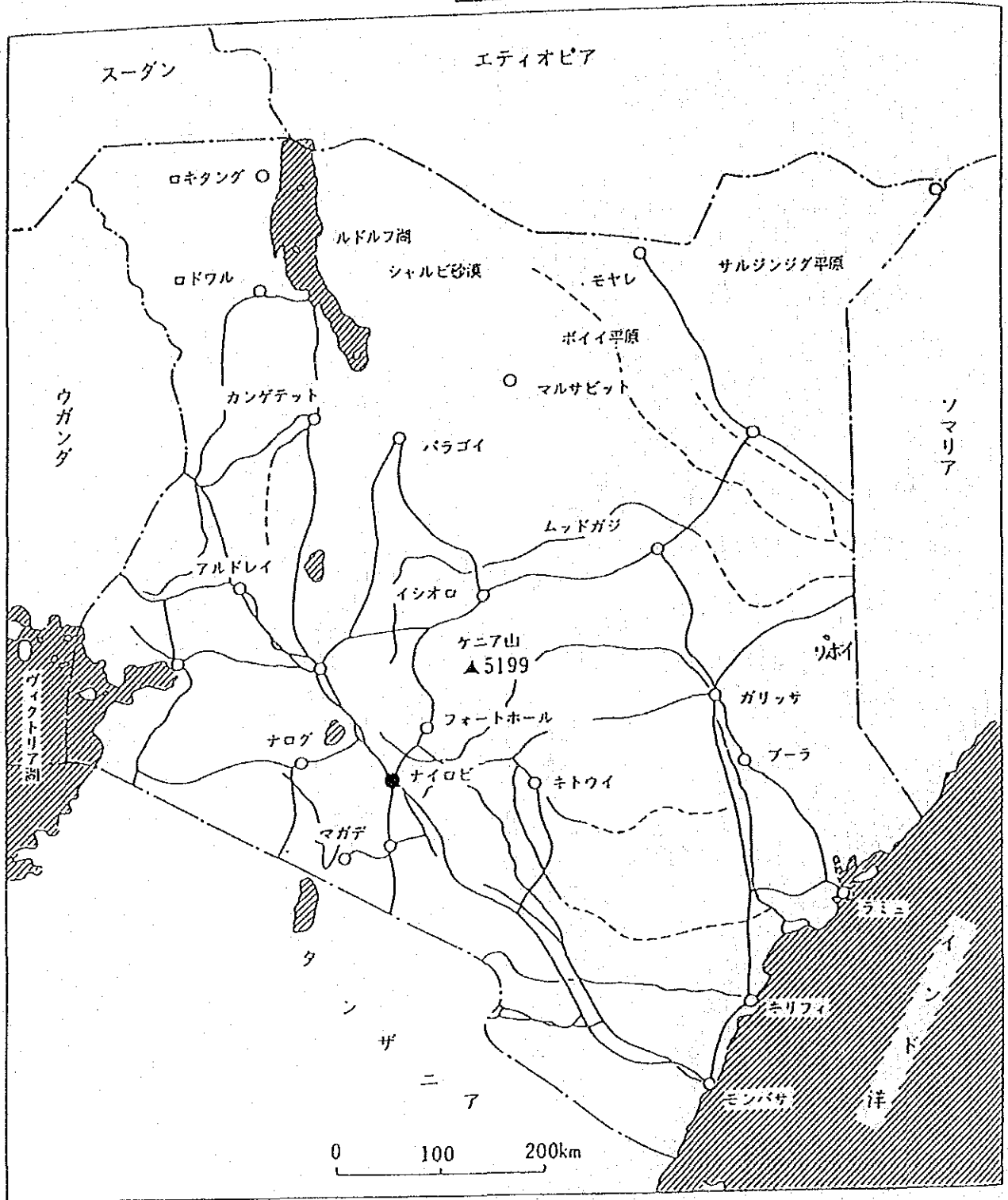
6. 諸外国の援助状況

米	：プラスチックシート	56万5,000 ケニアシリング (ksh)
独	：井戸掘削	700万ksh
	食糧	170万ksh
スイス	：食糧	75メトリック・トン (金額不明)
イラン	：食糧 (米、豆、小麦粉、砂糖、食用油他)	20万ksh

リボイ、イフォ等のキャンプの物資運搬、分配等を担当している
NGO のCARE INTERNATIONALに対して

加	：	27万6 千カドル
米	：	25万米ドル
E C	：	23万9 千米ドル

ケニア



2. 平成3年度JDR医療・機材・ リーダー各研修会

平成 3 年 度 各 研 修 会

医療チーム

- 第 1 0 回 J M T D R 研 修 会
平成 3 年 7 月 12 日 (金) ~ 14 日 (日)
(於 : 河 口 湖 レイ ク ラ ン ド ホ テ ル)

- 第 1 1 回 J M T D R 研 修 会
平成 3 年 11 月 16 日 (土)
(於 : 国 際 協 力 総 合 研 修 所)

救助チーム

- 第 2 回 救 助 チ ー ム 資 機 材 習 熟 訓 練
平成 3 年 12 月 11 日 (水) ~ 13 日 (金)
(於 : 栃 木 県 鹿 沼)

- 第 3 回 救 助 チ ー ム 資 機 材 習 熟 訓 練
平成 4 年 3 月 4 日 (水) ~ 6 日 (金)

- 第 3 回 救 助 チ ー ム リ ー グ ー 研 修 会
平成 4 年 2 月 28 日 (金) ~ 29 日 (土)

第10回JMTDR研修会プログラム

	時 間	プ ロ グ ラ ム	場 所	備 考
第1日 7月12日 (金)	09:30 09:45- -12:00 12:30--13:30 13:30- -14:00 14:00--14:30 14:30--15:00 15:00--15:15 15:15--15:30 15:30--16:00 16:00--16:40 16:40--17:40 17:40--19:10 19:10--19:30 19:30--21:00	新宿駅西口朝日生命ビル前集合 新宿駅西口朝日生命ビル前出発 レイクランドホテル着(河口湖) 受付 昼食 開会式 オリエンテーション、委員・講師紹介 国際緊急援助隊概要及びJMTDR概要説明 登録システム、傷害保険、出張時の身分等説明 質疑応答 コーヒーブレイク 出発から現地到着まで グルーピング シミュレーション方式の説明 設問1「活動開始にあたって」 設問2「活動中の心構え」 プログラム打ち合わせ(委員・講師/事務局のみ) 懇親会		
第2日 7月13日 (土)	08:00--09:00 09:00--10:00 10:00--10:15 10:15--11:15 11:15--12:45 12:45--13:45 13:45--14:45 14:45--15:00 15:00--15:15 15:15--15:30 15:30--16:15 16:15--16:45 16:45--17:15 17:15--17:45 17:45--18:20 18:20--19:50 20:00--	朝食 設問3「異文化理解」 コーヒーブレイク 講義「災害時の心理」 設問4「医療活動」 昼食 設問5「調整・協力」 コーヒーブレイク 講義「撤退にあたって」 携行機材等説明 設問6「個人衛生」 講義「個人衛生について」 講義「水について」 質疑応答 JDR体験談(医師、看護婦、調整員別) 夕食 訓練準備(事務局)		
第3日 7月14日 (日)	07:00--07:30 07:30--07:45 07:45--08:15 08:15--08:45 08:45--09:15 07:45--09:15 09:15--09:45 09:45--10:15 10:15--10:45 09:15--10:45 10:45--11:15 11:30- -12:30 13:00- -15:30	朝食 野外訓練の方法説明 野外訓練 1.ファーストエイド (Iグループ) 2.包帯法、担架 3.ロープ法 (IIグループ) テントの取扱い、移動診療車 野外訓練 1.ファーストエイド (IIグループ) 2.包帯法、担架 3.ロープ法 (Iグループ) テントの取扱い、移動診療車 レポート作成 修了式 講評 昼食 閉会の辞 レイクランドホテル出発 新宿着・解散		

第10回JMTDR研修会 参加者リスト (受講者)

	氏名	職種	所属先	備考
1	朝日茂樹	医師	横浜新都市脳外科	
2	安藤 亨	〃	国立熱海病院	
3	今村純一	〃	国立下関病院	
4	今出 昌一	〃	(株) ジャックス	
5	井上 清	〃	済生会中央病院	
6	大久保 忠成	〃	済生会中央病院	
7	尾原善悦	〃	済生会川口総合病院	
8	甲斐達朗	〃	大阪府立千里救命救急センター	
9	加藤元一	〃	国立療養所千石荘病院	
10	坂上淳一	〃	水谷歯科クリニック	
11	清水 聡	〃	京都南病院	
12	鈴木淑男	〃	国立療養所千石荘病院	
13	常光謙輔	〃	済生会西条病院	
14	竹内郁男	〃	済生会中央病院	
15	田村正徳	〃	東京大学付属病院	
16	富田裕彦	〃	大阪大学医学部	
17	中田 進	〃	国立医療センター	
18	西上茂樹	〃	国立療養所千石荘病院	
19	濱口芳雄	〃	外務省診療所	
20	服部昌和	〃	福井県立成人病センター	
21	淵崎祐一	〃	おりど病院	
22	三村哲重	〃	岡山済生会総合病院	
23	箕輪良行	〃	自治医大付属大宮医療センター	
24	森山芳成	〃	都立築地産院	
25	山下雅知	〃	敬愛会中頭病院	

	氏名	職種	所属先	備考
26	市原悦子	看護婦	岡山済生会総合病院	
27	歌川多香子	〃	なし	
28	上野知子	〃	日本医科大学付属多摩永山病院	
29	大野優子	〃	済生会中央病院	
30	大井幸子	〃	済生会川口総合病院	
31	小口博行	看護師	日本医科大学付属多摩永山病院	
32	上條京子	看護婦	国立療養所長良病院	
33	久野昭	看護師	スカイアンドマリクラブ	
34	黒田久子	看護婦	なし	
35	黒田美知子	〃	行政事務局組合立那須南病院	
36	小林チカ	〃	なし	
37	坂本三千代	〃	福井県済生会病院	
38	坂本幸廣	看護師	日本医科大学付属多摩永山病院	
39	斎藤浩司	〃	埼玉医科大学附属病院	
40	佐藤和子	看護婦	なし	
41	佐藤智子	〃	なし	
42	斎田倫子	〃	済生会中央病院	
43	品川 姪	〃	国立病院医療センター	
44	鷺見明美	〃	国立療養所長良病院	
45	高崎貴子	〃	福井県済生会病院	
46	富永理子	〃	国立呉病院	
47	永尾 さつき	〃	大阪脳神経外科病院	
48	中村圭志	看護師	日本医科大学付属多摩永山病院	
49	南波 悠紀子	看護婦	浮田医院	
50	野口 真貴子	〃	聖路加国際病院	

	氏名	職種	所属先	備考
51	橋本 裕恵	看護婦	東大大学院医学系研究科	
52	松本 エリ子	〃	県西部浜松医療センター	
53	宮田 裕子	〃	大阪府立千里救命救急センター	
54	三好 安子	〃	北里大学病院	
55	山口 美子	〃	国立療養所長良病院	
56	山本 基	看護師	聖ヨハネ会桜町病院	
57	山口 千幸	看護婦	都立府中病院	
58	吉満 さとみ	〃	国立療養所長良病院	
59	渡辺 ミヨ子	〃	なし	
60	天野 龍男	調整員	なし	
61	井出 祥子	〃	国際協力サービスセンター	
62	籠橋 秀樹	〃	国際協力事業団	
63	北島 美子	〃	国際協力サービスセンター	
64	黒羽 秀明	〃	救世軍清瀬病院	
65	斉出 光布	〃	東京アニメーター学院	
66	坂田 正三	〃	国際協力事業団中部支部	
67	重田 裕司	〃	兵庫県立尼崎病院	
68	富岡 紀子	〃	なし	
69	松尾 栄樹	〃	済生会福岡総合病院	
70	村田 芳子	〃	済生会松阪総合病院	
71	村上 剛	〃	国際協力事業団	

第10回JMTDR研修会—用語集—

1. ジャイカ：国際協力事業団（JICA）（政府ベースで国際協力を実施している外務省管轄の特殊法人）
2. ODA：政府開発援助（Official Development Assistance）
3. NGO：民間非営利団体（Non Governmental Organization）。JICAのような政府機関（GO）の対語で、民間のボランティア機関をさす。
4. JDR：国際緊急援助隊（Japan Disaster Relief Team）
5. JMTDR：国際緊急援助隊医療チーム（Japan Medical Team for Disaster Relief/JDR Medical team）
6. UNDRO：アンドロ、国連災害救済調整官事務所（Office of The United Nations Disaster Relief Co-ordinator）
7. UNIPAC：ユニバック、UNICEF物資調達部門（UNICEF Procurement and Assembly Centre）（UNICEF: United Nations Children's Fund）
8. OFDA：米国海外災害救援局（Office of Foreign Disaster Assistance）
9. UNDP：国連開発計画（United Nations Development Program）
10. PAHO：汎米保健機構（Pan American Health Organization）、WHO
11. ICRC：赤十字国際委員会（International Committee of The Red Cross）
12. LRCS：赤十字・赤新月社連盟（通称：リーグ、連盟）（League of Red Cross and Red Crescent Societies）
13. MSF：国境なき医師団（Medecins Sans Frontieres）
MDM：世界の医師団（Medecins Du Monde）
15. トリアージュ：患者選別
16. カウンターパート：相手（Counterpart）。緊急援助隊が現地で、共に活動する相手国医師・スタッフ
17. アコモデーション：宿泊など滞在するための施設（Accomodation）
18. デブリ：（debridement）（F）の通称。汚染し、または異物の入った傷をきれいにする（一般に、壊死した組織を切り取る）こと
19. インマルサット：海事通信衛星を利用した通信システム（INMARSAT: International Maritime Satellite Organization）
緊急援助隊（JDR）では、持参する可搬型地球局のこの通称。
20. インフラ：社会生活基盤、インフラストラクチャー（Infrastructure）の略
21. ライフライン：生活するのに最低限度必要な社会基盤（水、ガス、電気など）

以上

第11回JMTDR研修会プログラム

時 間	プ ロ グ ラ ム	場 所	備 考
08:00	国際協力センター集合	国際会議場	
08:30-	開会式	国際会議場	
-08:50	オリエンテーション、委員・講師紹介	〃	
08:50--09:00	国際緊急援助隊概要	〃	
09:00--09:10	JMTDR概要説明及び出発から現地到着まで	〃	
09:10--09:30	登録システム、傷害保険、出張時の身分等説明	〃	
09:30--09:45	質疑応答	〃	
11月16日 09:45--10:00	休 憩	ロ ビ ー	
10:00--10:05	シミュレーション方式の説明	国際会議場	
10:05--11:10	*セッション1	会議場、セミナー室、研修室	
11:10--12:30	*セッション2	会議場、セミナー室、研修室	
12:30--13:30	昼 食	食 堂	
13:10--13:30	ビデオ上映	国際会議場	
13:30--14:40	*セッション3	会議場、セミナー室、研修室	
14:40--14:55	休 憩	ロ ビ ー	
14:55--15:10	「撤退にあたって」の説明	国際会議場	
15:10--15:30	講義「個人衛生について」	〃	
15:30--16:05	JDR体験談（医師、看護婦、調整員別）	〃 他	
16:05--16:30	質疑応答及び討論会	国際会議場	
16:30--17:00	修了式	〃	
	講 評	〃	

(敬称略)

*セッション1

- 10:00--10:05 シミュレーション方式の説明
- 10:05--10:30 ディスカッション（移動時間含む）
- 10:30--10:50 報 告
- 10:50--11:10 講 評

*セッション2

- 11:10--11:55 ディスカッション（移動時間含む）
- 11:55--12:15 報 告
- 12:15--12:30 講 評

*セッション3

- 13:30--13:50 ディスカッション（移動時間含む）
- 13:50--14:10 報 告
- 14:10--14:40 講 評

注意事項

1. 受講者は8:25（受付時間8:00~8:25）までに受付をすませてください。
2. 発言するときは必ず、グループ名、氏名を述べてから発言して下さい。
例、Aグループの国際太郎です。
3. 1日コースでかなりタイトなスケジュールですので休憩後等は時間内に席に戻して下さい。

第11回JMTDR研修会 参加者リスト (受講者)

	氏名	職種	所属先	グループ	備考
1	金川 修造	医師	国立病院医療センター	B	
2	川島 広夫	〃	札幌医科大学	C	
3	北原 光夫	〃	済生会中央病院	D	
4	小橋 良太郎	〃	徳州会岸和田病院	E	
5	新藤 正輝	〃	北里大学	F	
6	須崎 紳一郎	〃	日本医科大学付属多摩永山病院	A	
7	高橋 進	〃	青年海外協力隊事務局	B	
8	高田 和夫	〃	国立呉病院	C	
9	田中 次郎	〃	(財)朝霞厚生病院	D	
10	谷口 一則	〃	大阪府立千里救命救急センター	E	
11	当広 美樹	〃	大阪府立千里救命救急センター	F	
12	長島 通	〃	千葉大学医学部附属病院	A	
13	原田 憲正	〃	市立堺病院	B	
14	安藤 まり子	看護婦		F	
15	石田 喜代美	〃		E	
16	石井 清美	〃	京都八幡病院	C	
17	薄井 典子	〃		D	
18	榎本 里枝子	〃		E	
19	大下 敏子	〃		F	
20	大友 直子	〃		A	
21	大島 英子	〃	青年海外協力協会	C	
22	大山 昌江	〃		A	
23	金子里 美	〃	市川東病院	D	
24	河村 よし乃	看護婦	弥栄町国民健康保険病院	D	
25	金澤 豊	看護師	長浜赤十字病院	A	

	氏名	職種	所属先	グループ	備考
26	北川 真由美	看護婦	札幌北楡病院	A	
27	喜多野 良子	〃	東京厚生年金病院	B	
28	木内 和子	〃	社会福祉法人桜町病院	E	
29	京極 多歌子	〃	大阪府立千里救命救急センター	E	
30	倉島 玲子	〃	医療法人借行会名古屋共立病院	F	
31	古島 豊子	〃	大阪府立千里救命救急センター	A	
32	塩津 正己	看護師		B	
33	志賀 由美	看護婦	本多記念医療管理研究所	B	
34	杉村 美代子	〃	星が丘マクニティ病院	E	
35	鈴木 三保	〃	山田整形外科医院	D	
36	鈴木 由美子	〃	札幌しらかば台病院	C	
37	高江 万里	〃	大阪府立千里救命救急センター	F	
38	田本 敬子	〃	大阪府立千里救命救急センター	B	
39	中村 勝	看護師	東北福祉大学在学中	C	
40	長島 千枝	看護婦	東京都立墨東病院	C	
41	西田 直美	〃	大阪府立千里救命救急センター	D	
42	増田 容子	〃	南大阪総合健診センター	E	
43	村野 香保里	〃	大畑病院	A	
44	福西 義弘	看護師	西本整形外科眼科	D	
45	柳澤 今朝雄	〃	松塩クリニック透析センター	E	
46	山川 敦嗣	看護師	飯能靖和病院	F	
47	山岸 映子	看護婦		B	
48	若狭 真美	〃	大阪府立千里救命救急センター	C	
49	渡邊 啓子	〃		D	
50	相川 政夫	調理師	針灸らくらく堂	F	

	氏名	職種	所属先	グループ	備考
51	小川 修	調整員	ブレイスオガワ	A	
52	大久保 眞吾	〃	サトウ音研	B	
53	工藤 忠	〃	済生会川口総合病院	C	
54	五反田 英三	〃	五反田整骨院	D	
55	佐藤 矢市	〃	ジョイフル心理相談室	E	
56	下園 喜久代	〃		E	
57	田中 省三	〃	久保田製材所	B	
58	西山 峰次	〃	有田ケーブルネットワーク(株)	D	
59	原 美知子	〃		F	
60	濱田 孝子	〃		A	
61	武士俣 照子	〃		B	
62	町田 あきこ	〃		A	
63	村田 雅	〃	国際協力事業団 中部支部	C	
64	門田 ちづ子	〃		E	
65	安田 三郎	〃	安田病院	F	
66	八田 實	〃	多摩歯科技工所	D	

第11回JMTDR研修会 参加者リスト (講師、委員、スタッフ等)

	氏名	所属先	グループ	備考
74	本多 憲 児	医療法人知心会本多記念東北循環器科病院	A	
75	今川 八 東	麻布大学環境保健部環境微生物教室	B	
76	山本 保 博	日本医科大学付属多摩永山病院		
77	奥村 悦 之	高知学園短期大学衛生技術課教授	C	
78	高橋 有 二	日赤医療センター	D	
79	谷 庄 吉	横浜市立大学	E	
80	東浦 洋	日本赤十字社	F	
81	稲田 美 和	日本赤十字社	A	
82	青野 允	金沢医科大学	B	
83	中村 安 秀	都立大塚病院内母子保健サービスセンター	C	
84	金田 正 樹	聖マリアンナ医科大学東横病院	D	
85	杉本 勝 彦	北里大学病院	E	
86	和泉 眞 蔵	国立多摩研究所	F	
87	菅沼 洋 治	佐世保中央病院	A	
88	松野 時 子	北里大学病院	B	
89	山崎 達 枝	都立松沢病院	C	
90	奥村 順 子	JICA医療協力部ジュニア専門員	D	
91	二宮 宣 文	日本医科大学付属病院		
92	西川 富己子	都立府中療育センター		
93	曾我 紘 一	JICA医療協力部長		
94	小野 睦 一	JICA国際緊急援助室長		
95	筧 克 彦	JICA国際緊急援助室		
96	関 徹 男	JICA国際緊急援助室		
97	古川 光 明	JICA国際緊急援助室		
98	白井 克 典	財国際協力サービスセンター	A	
99	瀬上 いさ子	財国際協力サービスセンター	B	

	氏 名	所 属 先	グループ	備 考
100	奥山 亮子	財国際協力サービスセンター	C	
101	本田 真智子	財国際協力サービスセンター	D	
102	糸 定	財国際協力サービスセンター	E	
103	浜田 順子	財国際協力サービスセンター	F	

ケース・スタディ資料

イラン流入イラク避難民

シュミレーション方式による設問討議

— ケース・スタディ —

平成3年3月下旬、イラク北部に住んでいたクルド族を中心とした民族は、イラク国内の民族対立によりイラク軍の攻撃を受け、隣接のイランおよびトルコへ避難し始めた。イラン政府によると、その数はイランに流入した者だけでも、4月8日現在で77万人に達しており、特にイラク北部からイランにかけて山岳地帯を移動した避難民は、イラン・イラク戦争時代に敷設された地雷に触れるなど多数の負傷者が発生し、また飢えと寒さのため女性・子供を含む多数のクルド人がイラン国境付近で死亡していると発表した。イラン政府は、この流入が近い将来150万人程度にはなると見ており、イラン政府のみでは十分な対応が不可能で、避難民が必要な支援が得られずにこのまま放置されれば、疫病などが大量に発生する可能性が高いとして、8日イラン外務省に避難民対策本部を設置するとともにUNDROを始めとした国際機関と各国に対し緊急援助を呼びかけた。

これに対し在イラン日本大使館は、イラン外務省と接触し、イラン政府が「あらゆる援助を必要としており、特に医薬品の供与の他、我が国の国際緊急援助隊医療チームの派遣を希望している」旨我が国外務省本省に伝えてきた。これを受け、外務省は4月9日（火）、国際緊急援助隊医療チームの派遣を決定、JICAは即刻、医療チーム派遣の手続きを開始した。

団員構成は、医師3名、看護婦（士）6名、調整員3名（内JICA職員1名）とし、さらに外務省職員が1名同行することとした。また現地の状況から、活動用のエアータント3セットの他、現地と日本との直通電話連絡用にインマルサット（海事衛星通信用船舶地球局）を同時携行することとした。イランでの活動場所については、在イラン日本大使館からイラン北西部・西アゼルバイジャン州・オシナビエ近郊になるとの情報を得ている。

旅程については、大量の同時携行機材をテヘランまで一度に運ぶ観点から、イラン航空が運行しているテヘランまでの直行便 IR-801（4月11日（木）14:55分発）を利用することとした。なお派遣する期間は、本チームの目的が避難民に対する医療行為であり、また現地でのテントなどの設営、および考えられる後続チームとの引き継ぎに日数を要することから、21日間に決定した。

<利用フライト（時間は全て現地時間）>

往路

4月11日(木)成田発 → 同日(11日)テヘラン着(IR-801)
(14:55) (23:50)

12日(金)テヘラン発 → 同日(12日)ウルミエ着(IR-181)
(10:00) (11:15)

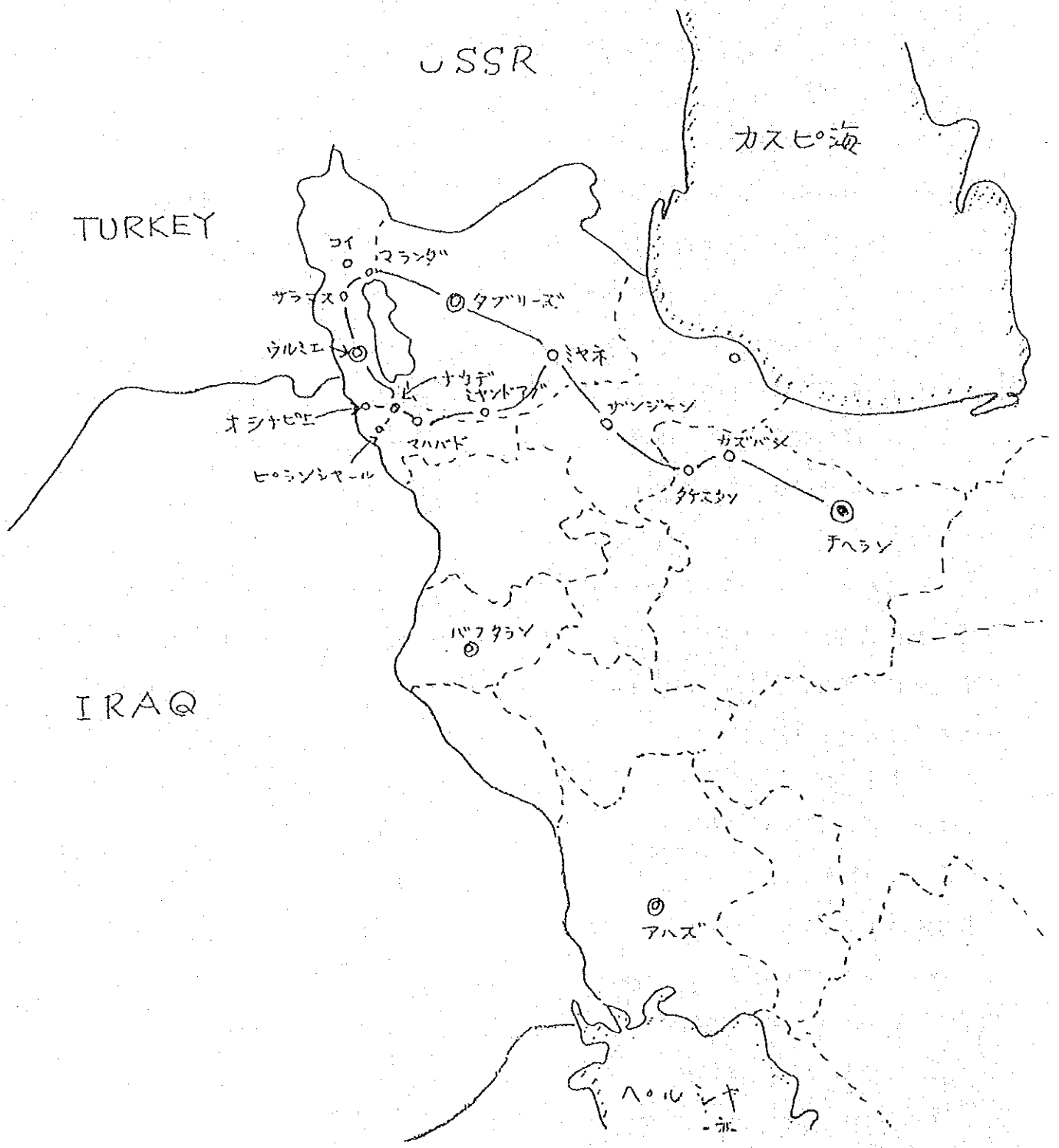
帰路

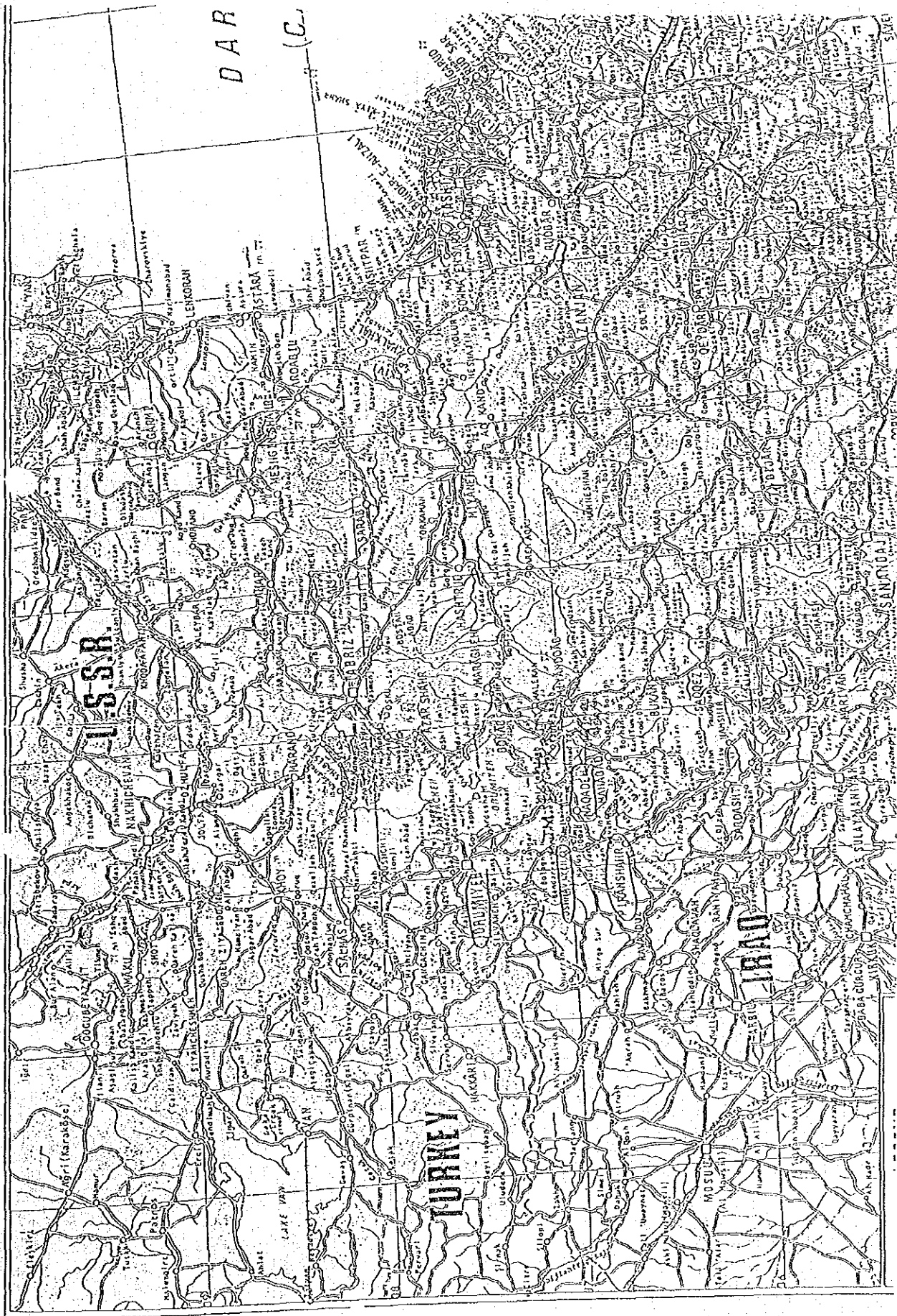
4月28日(土)ウルミエ発 → 同日(28日)テヘラン着(IR-182)
(11:45) (13:00)

4月30日(月)テヘラン発 → 同日(30日)ウィーン着(OS-774)
(03:40) (06:10)

5月1日(火)ウィーン発 → 5月2日(水)成田着(OS-555)
(11:15) (08:20)

あなたは、JMTDR登録者として、JICA国際緊急援助室から4月9日(火)の夜に出動依頼を受け、10日中に所属長の許可を取りつけて、11日・12時に成田空港へ集合することとなった。





DAR
(C)

USSR

TURKEY

IRAQ